

掲 示 板

2014年度第1号通巻第75号2014年6月21日



ナンジヤモンシヤ

今年もホタルが飛び始める季節となりました。先日は大津市の千丈川での観察会に行ってきた。昨年大雨により川が荒れたので心配していたのですが、ホタルの飛ぶ姿を確認することができ、生き物の生命の強さを感じました。みなさんの周辺ではホタルは見られたでしょうか。

今年度フィールドレポーターの担当学芸員は、主担当が榎永一宏(ますながかずひろ)、副担当が松田征也(まつだまさなり)と林竜馬(はやしりょうま)の三名体制です。みなさん、どうぞ、よろしくお願い致します。

私の博物館での担当は水生昆虫です。特にその中でもアシナガバエ(よくアシナガバチと間違われます^^;)の進化を研究しており、この虫を求めて県内のみならず世界各地に出かけています。この春は、念願かないダーウィンが進化論を着想したことで有名なガラパゴス諸島で調査を行いました。生き物が人を怖がらず、すぐそばまでやってきて、驚くほど間近で観察できることに感動しました(写真)。

さて、琵琶湖博物館は今年で開館18年目を迎え、2年後のリニューアルに向けて館内で検討が続けられているところです。リニューアルでは展示物の更新だけではなく、交流活動についても検討が行われています。私はこの交流活動の担当もしていますので、フィールドレポーターの活動についても、みなさんと共に考え、リニューアルしていきたいと思っています。どうぞ、色々な御意見をお聞かせ下さい。そして、一緒に新しい琵琶湖博物館を作っていきましょう。



カメラにとまったガラパゴスマネシツグミ

フィールドレポーター担当学芸員 榎永一宏

もくじ

| | | | | | | | |
|----|---------------|--------------|-----|----|------------------------|--------------|-----|
| 1 | 巻頭言 | 榎永一宏 | 1p | 2 | FR副担当着任挨拶 FR副担当離任挨拶 | 松田征也 楠岡 泰 | 2p |
| 3 | C展示室FRコーナー更新 | スタッフ | 2p | 4 | JICA研修生と交流しました | スタッフ | 3p |
| 5 | FR交流会活動報告 | スタッフ | 4p | 6 | 頼みの案山子 | 前田雅子 | 6p |
| 7 | グミは水切りネットでガード | びわこおお なまけ | 7p | 8 | 櫻の花の満開の下で | 久保和友 | 8p |
| 9 | FRの調査項目について | 加固啓英 | 8p | 10 | 迷惑動物対策にリモコン・ヘリを | 加固啓英 | 9p |
| 11 | ベランダの珍客 | 草津家猫 | 10p | 12 | シイノキとその花の調査 | スタッフ | 11p |
| 13 | FR活動報告 | スタッフ | 11p | 14 | 今後の予定・編集後記 | スタッフ | 12p |

フィールドレポーター副担当着任の挨拶

松田 征也

今年度のフィールドレポーター副担当学芸員となりました松田 征也(まつだ まさなり)です。フィールドレポーター制度がはじまった1997年度の第2回調査「水辺の貝を調べてみよう」と2012年度の第1回調査「スクミリンゴガイおよびタニシ類の分布調査」で、フィールドレポーターの皆様と一緒に活動させていただきました。1997年度の調査では、報告された調査データから湖北地域に二枚貝の貴重な生息地が存在することがわかって、その後の保全活動につながり、環境省が平成14年に発表した日本の重要湿地500にも選定されました。2012年度の調査では、外来種であるスクミリンゴガイの分布状況を把握するとともに、環境省のレッドリストでは準絶滅危惧に指定されるなど全国的に生息数が減少しているマルタニシが滋賀県内には複数箇所で見られていることがわかるなど、多くの地域の方々に参加することで、短期間で明らかにされるフィールドレポーターの力に感服しています。今年度の調査は私の専門とは異なりますが、どのような結果が得られるのか期待しています。どうぞ、今年1年よろしくお願いします。

フィールドレポーター副担当離任にあたって

楠岡 泰

3年間フィールドレポーターの皆様にはお世話になりました。この間、毎年主担当者が代わり、皆様にはご迷惑をおかけしました。それでも、各主担当は優秀で、私の出る幕はほとんどありませんでした。私の役割といえば、新しい担当者との顔つなぎぐらいではなかったかと思います。

思い出深いのは、山門水源の森での観察交流会で、レポーターの皆様とフィールドに出るのは本当に楽しいと感じました。いろいろな方とフィールドに出れば、必ず自分が知らなかった何かを教えていただき、ちょっと得した気分になります。

4月から展示グループに移りましたが、皆様の発見や耳よりな情報を期待しております。そして、フィールドへのお誘いもお待ちしております。

C展示室、フィールドレポーターコーナーを更新しました

ー昨年調査の「スクミリンゴガイおよびタニシ類の分布調査」パネルから昨年調査の「カタツムリ調査」のパネルに入れ替えました。

博物館の見学の折はぜひ立ち寄ってください



JICA研修生と交流しました

今年も、JICA研修生10名と通訳1名の方が博物館を訪問して研修しました。

5月24日（土）の午前中は交流室で“はしかけ”とフィールドレポーターの活動について説明をしました。

研修生の皆さんは熱心に聞いて、フィールドレポーター活動の説明についても質問を受けました。「レポーターの分布が博物館の周りに偏っていることの問題点とか、調査の結果がどのように生かされているのか、等」。

午後からフィールドレポーターの交流会にも参加して、調査結果報告のカタツムリ調査について、質問もしていました。

夕方から博物館の実験室で、研修生と博物館からの参加者皆さんがお国の料理を作って紹介したあと、試食しました。



《エジプト・スイーツ》



《料理中の研修生の皆さん》



2014年度第1回フィールドレポーター交流会の活動報告

年度初めの恒例行事第1回交流会は、ご案内の通り5月24日(土)午後1時半から午後4時半にかけて、琵琶湖博物館の生活実験工房と屋外展示の森で開催いたしました。参加者は56名で、学芸員、フィールドレポーター、カタツムリ観察会の参加者、JICAの研修生、当日入場方々という多彩な顔ぶれで、去年の約2倍の皆様で生活実験工房は満員の盛況でした。内容は昨年度の第1回調査「カタツムリ調査」の結果報告に引き続き、共同開催のカタツムリ観察会を屋外展示の森で行いました。その後第2回調査「小さい冬の調査」の結果報告、そしてイベントとして現在実施中の今年度第1回調査「身近なシイノキとその花をしらべてみよう」に関連して、シイノキの花及び山への拡大について説明を聞き、屋外展示の森を観察しました。参加者からの質疑応答も活発でとても有意義な交流会でした。準備していただきました学芸員、スタッフの皆様、ご参加いただいた皆様ありがとうございました。次に内容を少し紹介します。

☆ 交流会の内容 ☆

始めに、交流グループリーダーの榎永学芸員から次のように挨拶していただきました。

「交流会はレポーターが年に一度顔を合わせる会で、去年の2件の調査結果の報告会と、カタツムリ調査報告に関連して、初めての試みとしてカタツムリ観察会と共催しています。そして報告会の後、イベントとしてシイノキ観察会も予定しています。今日はこのように観察会の参加者やJICA研修生の見学参加も得て多くの皆様と開催できることを嬉しく思います。どうぞ午後一杯楽しんでください。そしてフィールドレポーターへの申し込みもお願いします。」

1、昨年度第1回調査「カタツムリ調査」報告

スタッフの多胡好武さんより報告していただきました。(内容は発行されている「フィールドレポーターだより通号第41号」をご覧ください。)

そして、調査を指導された金尾学芸員から次のようにコメントしていただきました。「今回の調査は見つけたカタツムリの写真を送っていただくことにしましたが、写真でもある程度種類を判別することができました。今回14種類の報告がありました。絶滅の恐れのある貴重な種類も見つかりました。カタツムリは動きが遅くないので写真で有効な調査ができることが判りました。これからも見つけたら写真を送ってください。分布情報に生かされます。」



2、カタツムリ観察会

金尾学芸員からカタツムリの標本を見ながら、珍しい種類などの説明を聞いた後、屋外展示の森にでかけました。カタツムリの隠れていそうな場所、探し方のコツを教えてください

た後、森に入ったらすぐに参加した皆さんから歓声や驚きの声が上がっていました。

3、昨年度第2回調査「小さい冬見つけた」 報告

スタッフの前田雅子さんより報告していただきました。(内容は発行されている「フィールドレポーターだより通号42号」をご覧ください。)

調査を指導された林学芸技師から次のようにコメントしていただきました。「この調査は冬に炬燵にでも入って気楽に参加してもらうという地味な調査でしたが、それぞれの人々の冬の生活、冬についての感じ方、とらえ方の違いが見えてきました。北の方からの報告は多くはないですが、滋賀県の中でも地域差があること、雪ひとつ見ても北と南でとらえ方が違うところが浮かび上がって見えて、皆さんも参考になったと思います。今回の調査は「地域だれでも・どこでも博物館」の魅力を感じていただける調査だと思いました。この会場に皆さんから送っていただいた写真を展示しています、コメントと合わせてみていただくと一層楽しく見ていただけると思います。博物館のホームページで『みんなで見つけた滋賀の小さな冬マップ』という表題で寄せられた写真を地図上で見れるように計画中です。どうぞアクセスしてください。」



4、報告会の最後にフィールドレポーター担当の松田学芸員から次のように挨拶していただきました。「ご参加ありがとうございました。発表された皆さんお疲れ様でした。カタツムリ調査では身の回りでカタツムリを観察できたのではないのでしょうか。また、小さい冬の調査では皆さんが感じた様々な情報を集めてまとめると面白い結果になりました。これからもフィールドレポーターの活動を博物館で紹介していきますので、この活動に参加して情報を共有していただければと思います。」

5、イベント

第1回調査「身近なシイノキとその花をしらべてみよう」関連、シイノキ観察会

最初に、この調査を指導していただいている林学芸技師からシイノキの花やシイノキの山での様子の写真を見せていただき、この調査の目的・意義について説明を受けました。「シイノキの花は5月上旬になるとカリフラワー状で黄金色に色付き良く目立つので観察してみてください。県内の山は今変化している時期でないかと思います。金勝山の20年前からの変化、京都の東山、大字山の様子、大津市の長等公園の山、田上山のそれぞれの変化の例を見てもシイノキの拡大して行く様子が伺える。こういう森林の変化が今後10年とか20年の短い間で見られ、その主役がシイノキになるのではないかと考えます。ぜひ、シイノキに関心を持っていただければという思いでこの調査を企画しました。今年は花がもう終わりになりかけていますが、ホームページでも皆さんから寄せられた情報を紹介していく予定です。シイノキの情報を引き続きお寄せいただきますようお願いいたします。」

この後屋外展示の森に出かけてシイノキの名残の花を観察することができました。

頼みの案山子

前田雅子

4月末の今、我が家周辺はタンポポの花盛り。県北部でも在来種のタンポポがぼちぼち咲く頃かなと思って、4月25日に湖西の北の方に出かけました。

マキノ町寺久保の農道を車で走っていると、畑で作業をしている人が見えました。でも、なんだか違和感が…?! 車を停めて畑の方を見ると、それは人ではなくて案山子(かかし)でした。男女4体のマネキンがきれいに服を着せられ、クワなどを手にして農作業に精をだしていました。見事にポーズをキメているので、私はすっかり騙されてしまいました。

よく見ると、畑はフェンスで囲まれています。農作物を動物に食べられないようにしているのでしょう。天井は開いているので鳥除けではなくて、サルやイノシシなどの動物除けと思われました。フェンスだけでは不安で、人がいるかのように装っているのでしょう。畑のそばの家に人影が見えたので声をかけて聞いてみると、「うちの畑ではないけれど、マネキンはその家の人にそっくり。特に息子さんとお母さんはよくできている。」ということでした。

今は山沿いの水田はどれも電機柵が設置されていて、人が近づけなくなっています。サル、イノシシ、シカなどの獣害から守るためでしょうが、時々、これでは人が檻に入れられているのではないかと錯覚しそうです。この畑の持ち主は、檻に入って野菜を作っているのですね。笑っていいのかどうか、難しい問題です。

ちなみに、タンポポはほとんどが在来種のセイタカタンポポで、外来種はあまりありませんでした。セイタカタンポポは名前の通り背が高く(茎が長く伸びる)、大型で気品のある感じが、私は好きです。



グミは水切りネットでガード

びわこおおなまけ



3年前の掲示板に、わが家のグミは結実しないので哀しいと投稿した。（「採らぬグミの実算用」2011年6月）それで来年もだめなら伐り倒そうと覚悟したまま3年が過ぎた。

まったく成らないのではなく、数個が申しわけ程度に実るので、もしやと淡い期待を抱いては裏切られる侘しい初夏の日々であった。

今年も5月の連休前から盛大に白い花をつけて期待をつのらせてくれた。この花のすべてが結実したらJAの野菜販売所へ出荷できそうな数で、毎年それは見事な開花であった。花の後は、実になるのを待つばかりと単純に考えては、悔しい思いをしていたこれまでと違い、今年は葉陰のあちこちに小さい青い実がぶら下がるようになった。

連休がすんで青い実はだんだん大きくなってきた。

どうやら今年は完熟した実になりそうで、早いのはうっすら赤味がついているではないか。これは本物、私より先に鳥に賞味されないように何かで覆うことを考えた。

樹全体を覆うのは大げさだしそれだけの費用も大変。果実に袋を被せる果樹園の作業を思い出し、わが家のグミも袋掛けで鳥害から守ろうと決め、園芸用品売り場でネットを漁ったが見当たらない。家庭用品売り場で浅型排水口用「水切りネット」12cm×15cmを見つけ、さっそくグミに被せる作業を始めた。

果樹園の果実は大きい実だが、わが家の果実はせいぜい指先大で袋が大きすぎる。これで鳥害を防げるのであればよしとして、ときには2~3個をまとめて一袋に入れて、いちいち紐で括る面倒は避けて輪ゴムで止めるが、か細く長い果柄、その際の葉を一緒に入れると袋の口が広がる。果実だけを入れようとあれこれやっていると果実がポロリと落ちてしまう。四苦八苦して35袋入りのネットを使い果たした。と言うことは35個プラス5~6個、せいぜい40個の収穫である。

6月になって青かった実のほとんどが赤くふっくらと充実してきた。鳥害も避けられたが、時折カラスがばたばたと飛び去ることがあり、袋掛けできてない実を漁っていたようだ。

30数個を収穫、植えてから10年余りして、今年初めてまとまった数の実が採れた。来年はもっと成るのを望んで、伐るのは撤回して樹を保護することにした。

甘酸っぱい実を頬張り、種をぷつと吹き飛ばして距離を競ったあの日が蘇った年であった。

表 題 【櫻の花の満開の下で】

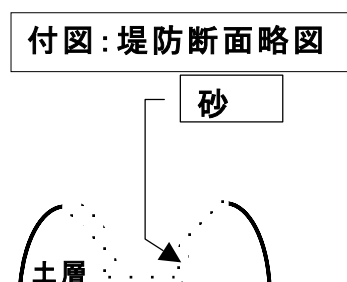
投稿日 【20140313】

草津市 久保和友

桜が咲くと旧草津川の天井川の堤防を毎日のように歩いてみたい。そんな見事な桜の美しさが、昔の川が消えたいまも清流には水が流れなくなっても美しいです。草津市では、昔の天井川の長堤が分断され、いま公園化しています。跡地の活用や防災計画は下記(注)のようです。あまり住民にも熟知されておりません。琵琶湖博物館でも、昔と今の移り変わりを展示パネルなどをお願いしたいものです。

安政元年(1854年)にマグニチュード6.9の大地震がこの草津川を切断し、大洪水のあった記録、上笠村の庄屋の記録がいま草津宿街道交流館で古文書として展示されています。(問合せ:077-567-0030)

私は桜の花の下の旧草津川の堤防分断面が、いまはっきり見られる砂と土の切った面にレポートしていきたい思いです。



(注)添付の参考資料は編集の都合上、割愛
させていただきます。ご参考のため草津市ホームページ
『草津川跡地利用基本計画』をご紹介します。(編集担当)

表 題 【F・レポーターの調査項目について】

投稿日 【20140429】

彦根市 加固啓英

従来通りの時々の調査に加えて、これまで行った全調査項目を見直し、意義深い項目数点を選び出して毎年繰り返し調査し、経年変化の傾向の分かる、年毎に積み重なる報告書としませんか。年に1回の締切日と集計としますと報告者は一件・一調査場所あたりに1報告で済みます。

- *他にもかなり手抜きでも行え、意味のある調査項目も有ります。例えばネコのセレナーデの聞こえた場所と日時の記録と天候等の関係調査等も面白いと思います。
- *彦根市南限の愛知川河床ではオオヨシキリの鳴き声と一対一でマークする様に、多分托卵を狙うホトギスの鳴き声が聞かれますが、県下全域の調査も欲しいです。
- *通りすがり路上のロードキル情報も価値が有ると思います。守るべき動物の頻繁にロードキルの見られる場所にU字溝程度の動物専用の地下横断通路の設置を県に検討依頼することも出来ると思います。

* 数年前、損傷の少ないハクビシンのロードキルの死体を、ほねほねくらぶにお届けした事が有りましたが、その骨格標本や剥製は今、貴博物館で見られるのです。ハクビシンは元禄時代の絵画にも有り、在来種か外来種かの問題の有る種ですが、DNA調査は行われているのですか。

(原色日本哺乳類図鑑:保育社昭和35年、1960年発行では「骨格より、紅頭嶼産とは明らかに異なる」とされています。)



表 題 【迷惑動物対策にリモコン・ヘリを】

投稿日 【20140429】

彦根市 加固啓英

近年カワウが大増殖し、イノシシ、シカ、クマ、サル等が頻繁に人里に出没し、山菜採りに山に入った人がクマに殺され、民家に近い農地の作物が食い荒らされ、市街地まで出没したサルに人が引っ掻かれ、イノシシに食いつかれて怪我をさせられる様な事故が多発していると聞きます。又、カワウ、ドバト、ムクドリ等の異常繁殖・営巣も問題です。

ハンターの高齢化や狩猟者人口の激減、狩猟法での危機回避の為の発砲禁止条項の繁雑さ、これらの迷惑動物の逃げ足の速さ等でテレビニュースで見る限り銃を使つての駆除も駆逐も、動物を安全な距離に拡散させるだけで効果は上がらない様に見受けられますが、これらの駆逐には、これらの害獣より格段に足の速いエンジンの熱排気・混合ガソリンの臭気・爆音・メインローターからの強風、で遠隔位置からでも省労力で追い立てられるリモコン・ヘリの活用が効果的かと思います。

又、シカを森に追い返すには、シカが脅かされた時の「ヒュー」という悲鳴を録音し、これを大音量で流せば、先頭で逃げる一頭の尻尾の裏と、その周囲の白い毛を見て文字通り追尾して一直線に森に帰ると思います。

* 20年以上前だったと思いますが、熊野の森林帯の木陰の小路を辿っている時に、何やら視線の端に生き物の気配。素知らぬ顔で通り過ぎ、静かに振り返ると杉の幹の陰でフリーズするシカと目が合いました。するとそのシカは「見たな！」の表情で「ヒュー」と一声、暗い木立の中で尻尾の裏とその回りの白い毛を目立たせて森の奥へと一目散。すると今まで気が付かなかった周囲の藪の中から7~8頭程のシカがムクムクと湧き上がり、先頭のシカに追い従い一瞬に消え去りました。確かに見た、だが足音も、藪を踏み越える音も、その重量感も記憶に無いのです。まるで動画の中のサンタクロースの櫓を見送る様な白昼夢的心境でした。

ベランダの珍客

草津家猫

わが家のベランダには種から育てた柑橘類の鉢植えがある。5月25日、トゲが軟らかいうちに切ってしまうおうとハサミをいれていた。おっ、こんなところに枯れ枝がとハサミをいれかけ、へえっ！枝じゃない！？なんじゃこりゃ？と凝視。

見事に枝に擬態して背筋ピン！！突っついてても枝になりきり動じない虫がいた。体長約7センチ、胴回り約8ミリ、くすんだ緑色で背中に薄茶色で◇ひし形っぽい柄がある虫。前脚と後脚の間が長く尺取り虫のようだ。

蝶の幼虫のように脚がたくさんないからたぶん蛾だと思うがなんだろう？暫くペットとして観察することにして、胴長枝之助と名付けた。

食事は主に夜、昼間はほとんど動かない。柑橘の新芽の先ばかりかじられている。なかなかのグルメ？尻に赤く短い突起が二本あるので触ってみたら頭を守るように体を丸めワッカを作った、その動きの素早いこと。成虫（蛾）が卵を産みにくるには飛んできたはず。虫の状態でこの16階まで尺取って来たのだとしたらとてつもない強者だ。



知人に写真を送り調べてもらったら、どうやらヨモギエダシャクのようなようだ。決まった食草はないとか。食べるのが葉だけなら許す。柑橘の鉢植えも食べるに耐える味に

育ったということだから。成虫になるまで見届けようと、毎朝晩どこにいるのか観察していたところ、5月30日行方不明となった。

29日夜、体が半分にまで縮み、しきりに頭を振っていたから、そろそろサナギになるかと思っただけだったが柑橘の幹には見当たらない。

以前クチナシにオオスカシバ（蛾）の幼虫がいて、サナギはコケの下にいたから、枝之助も同じようにいるかなとほじくってみたが見当たらない。ご縁があれば見つかるかと期待して数日探したが行方不明。6月12日シクラメンの葉軸に付いている枝之助？を発見！葉を全て食べ尽くし眠っている。明日からの食糧（葉っぱ）が無いのにのんきに枝になりきっている。しかし5月30日に逃亡した枝之助とはちょっと違うみたいだ。突起がお尻でなく肩にあるし、小ぶりで痩せている。なのにフンの大きさは枝之助の2倍だ。

この新参の尺取は成虫の姿を拝ませてもらおうべく、網かけするとかの囲い込み飼育方法を思案している。

第1回調査「身近なシイノキとその花をしらべてみよう」
の調査票提出は今月(6月)末迄です！よろしくお願いします。

皆さん、5月中旬頃カリフラワー状で黄金色に色付いたシイノキの花が鎮守の森や里山に見ることができましたが、いかがでしたでしょうか。6月の今頃はもう花の勢いは無く、若葉に隠れてしまい見立たなくなりました。

調査票の提出がまだの方はぜひ送ってくださいお願いします。花が見つけれなかった方もシイノキの思い出など記入して送ってください。待っています。



フィールドレポーター活動報告

定例会は毎月原則として 第1土曜日、第3土曜日に博物館の交流室で行っています。掲示板の最終ページの予定表をご覧ください。その他行事はその都度案内しています。お気軽に参加して下さい。2014年4月から2014年6月までの活動内容は次の通りです。

| 月 | 日 | 場 所 | 参加者 | 主な内容 |
|----|--------|-------------|-----------|--|
| 4月 | 5日(土) | 交流室 | 10名 | ①新年度担当学芸員の挨拶 ②「身近なシイノキとその花調査」の検討 ③C 展示入れ替え、カタツムリ調査の検討 ④交流会予定、日時 5月 24 日、報告、担当決定 |
| | 19日(土) | 交流室 | 9名 | ①「身近なシイノキとその花調査」の印刷・発送 ②フィールドレポーター交流会案内の印刷発送 ③C 展示、カタツムリ調査に次回定例会で入れ替え |
| 5月 | 10日(土) | 交流室 | 10名 | ①「小さい冬」レポーターだより検討 ②C展示「カタツムリ調査」に入れ替え ③フィールドレポーター交流会の準備 |
| | 24日(土) | 交流室 生活工房 | 9名 56名 | ①JICA研修生と交流会 ②第1回フィールドレポーター交流会 |
| 6月 | 7日(土) | 交流室 | 8名 | ①「小さい冬」レポーターだより発送 ②「小さい冬」写真のH. P掲載について ③トンボ調査の網、道具準備計画検討 ④「発見！びわこフェスティバル」参加検討 |
| | 21日(土) | 交流室 | 11名 | ①掲示板1号の発行・印刷・発送 |

フィールドレポーター7月～9月予定

次のとおり計画しておりますので皆さんご予定、ご参加お願いいたします。
 なお、予定が変更になる場合がありますのでご了承ください。

| | 日 時 | 内 容 | 場 所 |
|----|--------------------|------------------|--------|
| 7月 | 5日(土) 13:30～17:00 | 定例会 | 博物館交流室 |
| | 19日(土) 13:30～17:00 | 定例会 | 博物館交流室 |
| 8月 | 3日(日) 10:00～17:00 | アキアカネ調査・観察会 | びわこバレイ |
| | 23日(土) 13:30～17:00 | 定例会 | 博物館交流室 |
| 9月 | 6日(土) 13:30～17:00 | 「発見!びわこ博フェスティバル」 | 博物館交流室 |
| | 20日(土) 13:30～17:00 | 定例会、掲示板2号発行 | 博物館交流室 |

(おことわり；上表の博物館とは琵琶湖博物館のことです。)

編 集 後 記

田んぼは稲の丈が次第に大きく伸びて緑が鮮やかになってきました。この時期になると田んぼでアキアカネの羽化が始まりますが、皆さん観察できましたでしょうか。もし写真が撮れたら交流室のメールアドレスまで送ってください。そのアキアカネが山に登る8月3日(日)にはびわこバレイで観察会を予定しています。参加願います。

第1回目の調査「身近なシノキとその花をしらべてみよう」にご協力有難うございます。6月末まで引き続き調査票提出願います。

新年度第1回のフィールドレポーター交流会も盛会のうちに終了しました。今回、参加できなかった方、来年こそよろしく願います。

掲示板の投稿もぜひ願います。身の回りのこと、こんなことを見つけた、こんな写真が撮れた等ご気軽に投稿して下さい。

(担当 FRS 椋島)



滋賀県立
琵琶湖博物館
 交流センター
 〒525-0001 草津市下物 1091
 TEL 077-568-4811 (代) FAX 077-568-4850
 E-mail: freporter@lbm.go.jp

掲 示 板

2014年度第2号通巻第76号2014年9月20日



アレチウリ

セミにかわり、秋の鳴き虫の声が聞かれるようになりました。みなさんは、秋の気配をどのようなことから感じ取られているのでしょうか？

この夏、ドイツのポツダムで世界のハエの研究者が集まる国際双翅目会議に参加してきました。この会議は4年ごとに開催されるもので、カ、アブ、ハエの研究者が分類学的、進化的、遺伝学的、医学的な面に及ぶ様々な研究成果発表を行います。各国の研究者とも交流ができ、刺激を受けて帰ってきました。以前は参加者の出身国はやはり米国や英国が多かったのですが、今回、ブラジルと中国からの参加者が目立つようになりました。国の勢いが研究者社会にも見られるようです。

さて、本掲示板では、今春行いました「身近なシイノキとその花をしらべてみよう」の中間報告をお送りします。この調査の第二弾としまして、「身近なシイノキのドングリをしらべてみよう」が始まります。花から見たシイノキを、今度はその実であるドングリから見てみようという調査です。少し視点を変えることにより、みなさんにも新しい発見があることと思います。是非、調査に参加して頂き、その報告をお送り下さい。楽しみにお待ちしております。

フィールドレポーター担当学芸員 榎永一宏

もくじ

| | | | | | | | |
|----|-----------------|------|-----|----|------------------|---------|-----|
| 1 | 巻頭言 | 榎永一宏 | 1p | 2 | シイノキの花調査中間報告 | 椛島昭紘 | 2p |
| 3 | アキアカネ観察会(比良山) | スタッフ | 4p | 4 | 「オリジナル紙すき葉書」イベント | エイザンスミレ | 5p |
| 5 | キッチン・ガーデニング | 加固啓英 | 6p | 6 | アニマルパターンの法則、他 | 加固啓英 | 6p |
| 7 | お手軽トレジャーハンティング案 | 加固啓英 | 7p | 8 | 数ミリのおそろしい外来水生生物 | 津田國史 | 8p |
| 9 | 草津市商店街でツバメの巣 | 野遊人 | 9p | 10 | 山の麓のアキアカネ調査案内 | スタッフ | 10p |
| 11 | シイノキのドングリ調査案内 | スタッフ | 10p | 12 | FR活動報告 | スタッフ | 11p |
| 13 | 今後の予定・編集後記 | | 12p | | | | |

「身近なシイノキとその花をしらべてみよう」調査中間報告

(2014年9月20付)

1、はじめに

今回調査は調査期間が5月～6月末で、シイノキの花の咲き始めから終わる迄の短期間の調査でした。

調査には18名の皆さんから、62件の調査票を頂きました。そして63本の樹情報と37地点の花の写真、48本から採取された葉をお寄せいただきました。有難うございました。

調査地点は Fig-1に示す通り、52メッシュコード(世界基準)でした。

調査期間中の調査日別報告数は Fig-2に示しました。調査日は花が観察できる5月上旬から末まで、95%でした。

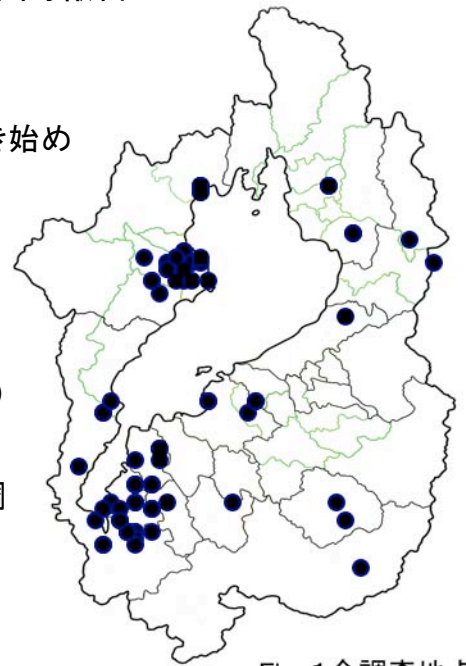


Fig-1全調査地点

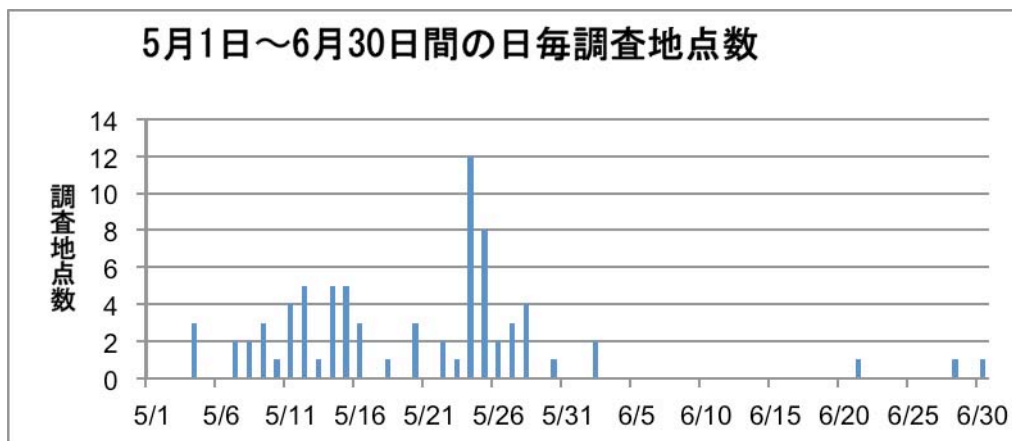


Fig-2調査日別報告数

2、調査地点の環境

報告された地点の環境を5つに区分してみました。Fig-3の通り神社・寺の境内やその近くでの報告が66%で最も多かった。次に学校・公園、山林、道路沿い(平地林)、住宅地でした。

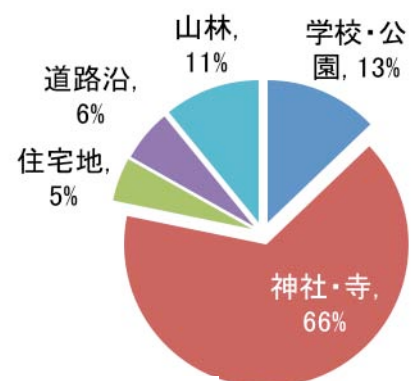


Fig-3 調査環境

3、シイノキの花の調査結果

シイノキの花が見つかったどうかの報告結果です。Fig-4には見つかった地点、Fig-5は見つからなかった地点です。 Fig-6は調査票

にコメントとして記載された、車などで移動中に遠景を観察した結果で、報告日は花が咲いていて良く目立った時期でした。

Fig-4 見つかった

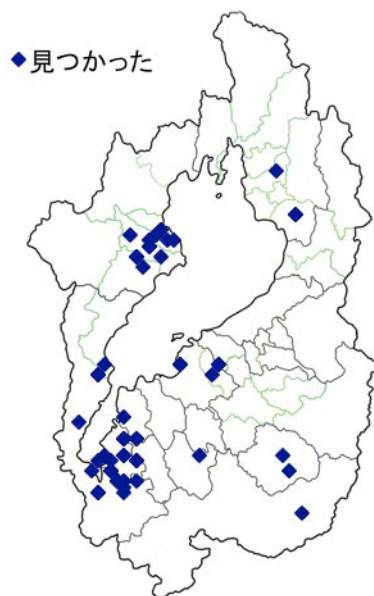


Fig-5 見つからなかった地点

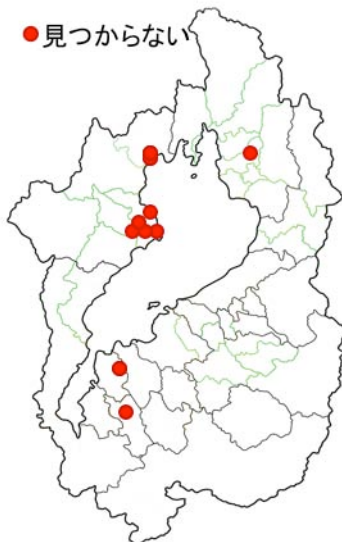
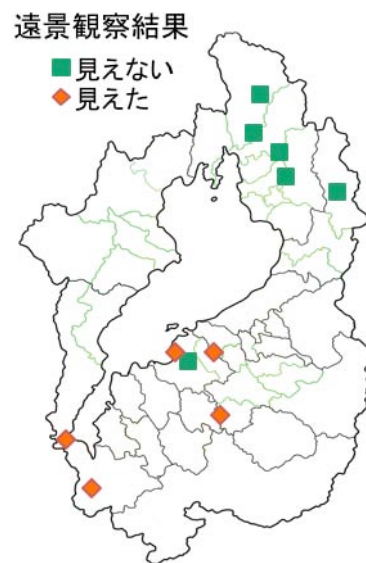


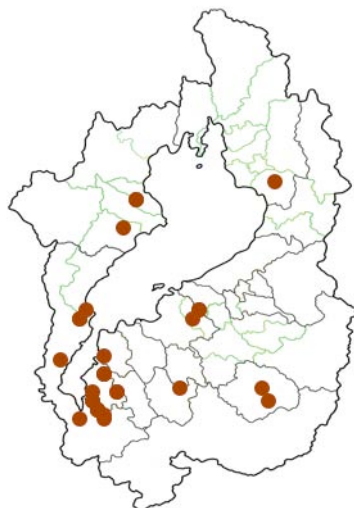
Fig-6 車中で遠景観察



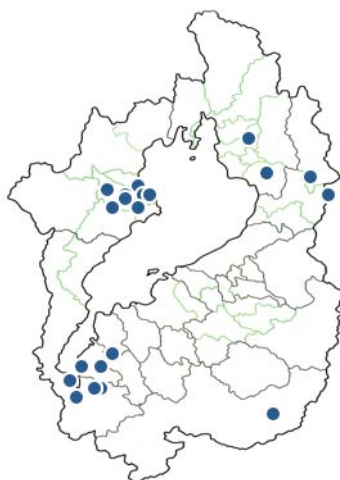
4、花が見つかったシイノキの種類

皆さんからの報告によるスダジイ、ツブラジイの分布結果です。

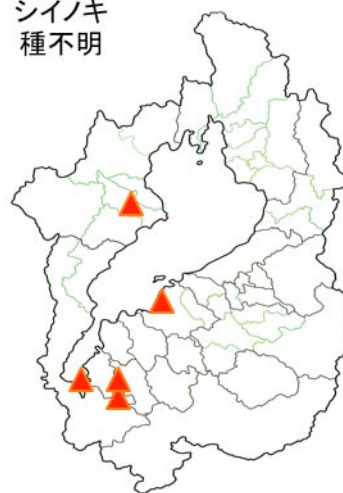
ツブラジイ



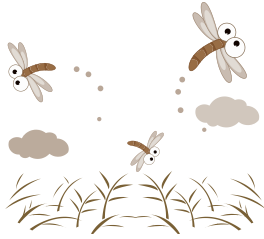
スダジイ



シイノキ
種不明



以上中間報告です。その他の結果とまとめて後日レポーターだよりで報告いたします。



アカトンボ(アキアカネ)の 調査・観察会を開催しました

今回、琵琶湖博物館のイベントとしてびわ湖バレイでアカトンボ(アキアカネ)の調査・観察会開催しました。そしてホームページでも参加募集をしました。

8月3日日曜日、台風12号が迷走して東シナ海に停滞し、雨模様が前日から続き当日の朝も曇り空、判断に迷う天気でした。びわ湖バレイのライブカメラを見ると霞で煙っていて蓬莱山頂は見えませんでした。雨ではなかったし、降水確率が午前30%、午後50%という予報を信じて実施しました。

こんな状況でしたが、集合場所のロープウェイ山麓駅前には、19名と多くの皆さんが集まって下さいました。(右写真)。ロープウェイで山上に着くと霧でしたが、予定通り開始、最初に八尋学芸員よりアカトンボの説明を聞きました。(次写真)その後、打見山リフト横、琵琶湖側を下りながら捕獲・マーキングをしました。飛んでいる数が少ないですが、40分間調査。午後の天気心配なので、早めの昼食を済ませて、次のゲレンデA区分に向かう頃から霧が一層濃くなって見通しが悪い状況になり、飛んでいる数も少なくて皆さん大苦戦されました。少し谷の方まで行った方が木陰にとまっているトンボを少し多くマーキングされました。この状況なので45分で終了しました。帰りに打見山リフト横、琵琶湖側を上りながら少し飛んでいるトンボをマーキングしました。

結果は合計179頭と少ない結果でしたが、皆さんが事故もなく笑顔で記念写真に収まっていた。13時半頃解散しました。ご参加の皆さんありがとうございました、そしてお疲れさまでした。



(この事業は公益財団法人国際花と緑の博覧記念協会の助成を受けています)

2014 年度「発見 びわ博フェスティバル」に参加して

今回フィールドレポーターオープンハウスは「オリジナル紙すき葉書作り」でびわ博フェスティバルに参加した。2012 年のイベントでも紙すき葉書を実施したが、その他のイベントでも「多羅葉」の葉を利用した遊びで、「はがき」を作ったこともある。

「なぜかフィールドレポーターは葉書に縁がある」と思いながら 1 週間前には予行演習、当日は早くから集まってパルプを溶かすなど準備をした。



以前実施した紙すきイベントでの「かんそうシート」の反応は、

「紙すき」に参加したすべての方が「楽しかった」「以前から一度やりたかった」「家でも牛乳パックで作ってみたい」等、大好評であった。

←（親子づれで紙すきを楽しむ）

（草花をあしらったデザイン） ↓

今回は 30 人の募集でしたが、小さな子どもとその家族が大半で、家族づれの賑やかな集まりとなりました。

事前に準備した草花や装飾品を思い思いに並べ、「オリジナルはがき」をなかよくすいておられました。

大いに楽しまれたようで、来年もまたフィールドレポーターは「紙すきはがき」??
?????

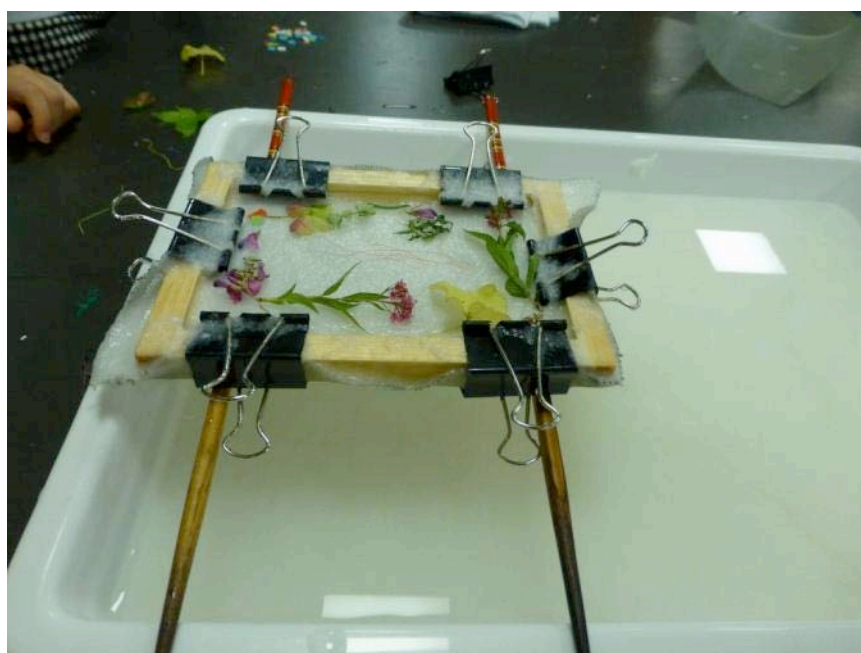


表 題「キッチン・ガーデニング」

投稿日「20140819」

彦根市 加固啓英

わが家の流し台の三角コーナーは園芸植物の宝庫です。三角コーナーから回収した種子からの苦瓜＝蔓荔枝（ツルレイシ）＝ゴーヤの蔓を日除け目的で育てて実った果実は天麩羅に、その種子で来年の分が、代々続けられます。

今は横浜の種苗店から取り寄せた、果実の白い種類を育てておりますが、毎日の様に長さが38cm程の果実を収穫しております。

60年以上も前、蔓荔枝は観賞用に鉢植えで60cm程に育てられるのが常で、食べ物とは考えられておりませんでした。当時、その種子の形は亀の子の形をしておりましたが、今の種子は首・手足・尻尾、の目り張りが不鮮明です。

アボカドの種子も良く発芽し、旺盛に育ちます。ところが品種(var)が異なるのか発芽した株毎にかなり様子の違う木になるのです。

始めに育てた物は上向きに生えた40cm程の葉が自重で途中から垂れ下がり、室温で常緑越冬しましたが、後から蒔いた種からは20cm程の葉で常緑越冬する物、枯死はしないが落葉する物、等様々でした。

双子葉植物の分際で、アサガオやダイズの様には胚乳が緑色にならないのも変です。私の手元の図鑑等では外国産の果樹については調べようが無く、どの様な花が咲くのか分かりません。末期高齢者の私の目の黒いうちに開花してくれそうにも有りません。

表 題「アニマルパターンの法則、その他」

投稿日「20140819」

彦根市 加固啓英

動物園、図鑑、TV映像、等で見ると野生の哺乳動物の毛色・斑紋は、どれも背中線で線対象に見えますが、一度人が家畜やペットとして手を加えた動物は、漢詩に謳われる蒙古の斑馬や、アメリカ大陸での野生化馬のマスタングや、乳牛のホルスタインや洋犬のポインターやセッター、飼い猫、等に見られる様に非対称の物が多い様ですが、これについて述べた法則が有るのでしょうか。又、私は40年来、黒柴犬から現在の相棒犬の、望まれずして作出されたハイブリッド犬（平たく云えば動物保護管理センターから譲り受けた、貰い手が無ければ殺処分されていた雑種の不要犬。）まで3代、黒を基調の雌犬をばかりを飼っています。初代の黒柴犬のみがペットショップから購入した純血種ですが、この犬の感覚毛の眉毛の上の位置にソラマメ大の赤煉瓦色の斑紋が有ります。和犬の元を迎れば一万年□六千年程昔の縄文時代の住居の出入り口付近に丁重に埋葬された犬の骨が見られ、その骨格は現代の和犬とそっくりとの事で、毛色も同様だったのでは無いでしょうか。これと同様の斑紋はヨーロッパのコーギー、ダックス

フント、グレートピレネー等の数種に見られますが、原種や近縁種の犬科の動物のディンゴ犬、各種のオオカミ類、コヨーテ、ヤブイヌ、等には見られません。飼い犬と野生種とはどのような血縁なのでしょう。これに付いて学芸員さんの解説を頂けないでしょうか。TV番組では、背中に放熱板とも云われる板状の突起物の有る恐竜の「背中の突起物は左右交互に配列している」との事でしたが、そうだとすると何か前後に振り分ける基準となる点がありそうで、始めに思い当たるのは脊椎骨単位に思われますが、それにしては突起の前後幅が大きすぎる様にも思えます。丁度今、京都水族館で恐竜展が開かれていると聞き孫たちを口実に化石を見に行きたいと思っています。

表 題 【お手軽トレジャーハンティング案】

投稿日 【20140819】

彦根市 加固啓英

誰も意識しない、振り向かない普通の土が埋蔵財宝である事をご存知ですか。今を去ること30余年、私は農林省（現；農林水産省）農業技術研究所で学生アルバイトをしておりました。当時は稲の稲熱病（イモチ病）対策の残留有機水銀剤の問題の露呈寸前の、秒を争う新農薬の製品開発の最終段階で、その成果がブラストサイジンSでした。

その一環として同研究所の関係者が身近な行動範囲の土を持ちより、黴を培養して薬効を調べていました。

「今世紀一杯掛かる」と云われたヒトゲノムが数年で解析された当今とは異なり、サンプルを希釈するにもサンプル数だけのメスフラスコとピペットを揃え、目玉を三角にしての標線合わせの必要な時代で、やたらに発見される黴から後のテストの手間を除外する篩落とし作業が続き、残念でしたが一寸した不明点・問題点でも有れば没にしなければなりませんでした。

資源の無い日本田の無料の土から、現代の解析手法でシステマティックに、効率良く抗生物質を発見する努力を再開出来ませんか。

私がアルバイトを離れて卒業・就職した途端にアメリカに向けて高価で輸出されていた（当時は固定レートで¥100＝\$360）高級食材の食用蛙（今のウシガエル）から農薬由来の有機水銀が検出され、ホビーを兼ねた割りの良い内職（？外職）の食用蛙釣りが壊滅しました。そして現在は日本中の水田や沼沢地からの「ウー・ウー・ウー・ウー」の大合唱です。現在のウシガエルを分析して、又、ホビー兼輸出産業を復活出来ませんか。又、ウシガエルの餌として輸入・繁殖させたアメリカザリガニも広く野生化しておりますが、これも北欧の沼沢地などからの高級食材のクローフィッシュに近い種であり、草食性も強いので、良く洗って糞をさせて香草類を与えて飼えば泥臭さも取れ、商品価値の高い輸出産業になる可能性も有ると思います。

数ミリのおそろしい外来水生生物

FRS 津田 國史

私の集落では学校の夏休みに合わせて毎年、高学年（小4～6）の生徒を対象に集落を流れる河川で水生生物の定点採集観察をおこなっている。

私もその手伝いをして3年になる。今年も3班に分かれて地区内の定点を調べた。私の担当は、以前はシーズンになるとゲンジボタルが乱舞した鎮守の杜の脇を流れる、幅1m余×流域200mで、毎年この流域を担当しているので生息の生物相は大体えがける。私の担当地点では他にはいないドジョウが見つかる。

調査が始まる前、私は流れの際で水流を見ていた。そこへ今日の調査の主任である守山市のホタルの森資料館の館長と学芸員2人が来られたので、「私の子供の頃はこの流れはきれいで、もっと水量も多かったからゲンジボタルがわんさと舞っていたのに…」と、集落の昔の様子を話した。

私の話を聞きながら水面を眺めておられた学芸員のHさんが、ひょいと水に入り、水中の藻を掬いあげて、自分の手のひらに広げ、藻をかき分けて何かをつまんで「これ！何か解りますか？」と黒い小さな粒を私に差し出された。

Hさんの指先に載っているのは、1ミリ余りの黒い丸味のある砂粒だから私にはなんとも答えようがなかった。「これはカワニナの一種で、コモチカワツボと言う外来種の幼生です」と始めて聞く名前を言われたが、私のカワニナ概念からは飛び離れていて、とうていカワニナには見えなかった。

それからのHさんの説明は驚くことばかりだった。外来生物であること、旺盛な繁殖力で在来のカワニナを駆逐するかも。成体でも数ミリと小さい体躯だから藻についたり、流れに乗って下流域に広がる。単為生殖だから1個体の生息でも増殖できる。日本に持ち込まれたのは魚類に混じってらしいが詳細は不明。天敵はいまのところ解らない。駆除の対策が立たない。水分のない干上がった状況でも、1週間や10日は生きているというから恐ろしく生命力のある水生生物だ。養魚場や湧水の下流あたりで密集して増殖しているのが見つかる。靴底や網などに付着して分布を拡大。聞けば聞くほど恐ろしいことばかりで、そんな奴が私の集落の水域にも居たことに驚いたし、それを今日まで知らなかったことを恥じた。

後で調べたら日本に入ってもう10数年になるようだ。ゲンジボタルの数令の幼生の餌として活用した所もあったとか。これを餌にしたゲンジボタルと、カワニナを餌にしたゲンジボタルとを比較した資料によると、光の強さがまったく違い、カワニナを餌にしたほうが強く光るとのこと。これは種の存続に関わると。早くからこの脅威を示唆しておられる方の資料によると、関西より関東に生息域が多いようだ。

駆除できない外来水生生物が拡散していると知らされ、その日の採集観察会はゆううつな一日であった。

草津市商店街でツバメの巣観察

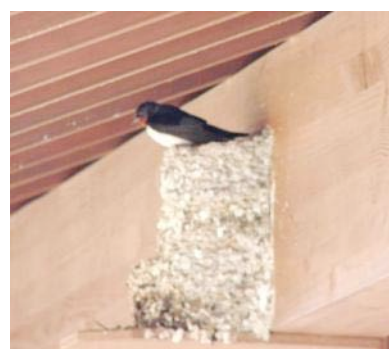
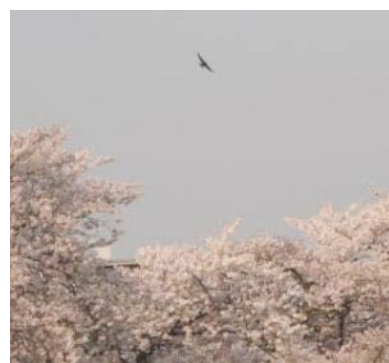
投稿日 【2014. 8. 31】

草津市 野遊人

草津駅東口を出て国道1号線方向に1分位歩くと、旧中山道の北中町商店街の入り口です。ここを右折して約350m位歩くと旧草津川（天井川）のトンネルがあり、そこを過ぎると旧東海道と合流します。ここに旧草津本陣があります。そのまま旧東海道草津宿の商店街を約1km歩くと、立木神社に着きます。この約1.3kmの商店街は、2007年「つばめ調査」の時つばめの巣を調べました。その後2011年と今年（2014年）3年ぶりに同じ場所を、桜の咲く4月初めから6月中旬までツバメの巣づくりの様子を見てきました。

4月の初め、旧草津川の土手の満開の桜の上を飛び交っているツバメを発見、いつもより早い訪れと思いました。Net 情報では「3月上旬には滋賀県でも見られた。」とありました。商店街の巣作りの様子を見ると4月から5月になっても3か所位しか巣作りしていません。余りにも少ないので6月まで、3年前と同じ観察を試みた結果です。旧草津川の隧道を基準に旧中山道側の商店街口から350m、旧東海道側の立木神社交差点まで約1kmの2区分に分けて5月末まで調べました。その結果は次の通り。

| | |
|----------------|---|
| 旧中山道側 | 2011年は2007年半分位、そして今年はゼロです。 |
| 旧東海道側 (右写真) | 2011年は2007年とはほぼ変化ありませんでしたが、今年は1/3位まで減りました。6月末までの観察でも2か所増えた位で大差なし。 |



3年間に何が変わったのでしょうか。例えば旧草津川の変化です。公園化され草原は手入れが行き届き綺麗になり、水溜まりも出来なくなりました。旧中山道側の通りはアーケードの一部が撤去され、新しい店が増え、以前から使っていた巣は減ってしまい、ツバメの巣の棚を設けてあるところにも巣を作らなくなっていました。旧東海道側の通りもアーケードが全て撤去されて明るくなりました。新しく改装された家でもツバメが巣づくりしやすいよう棚を設けてありますが巣作りしない所が多く、またツバメは巣の前の電線に止まり、回りを警戒しながら子育てしている様子を良く見かけました。ツバメは人々と関わりが強いと言われていいます。人間には見通しが良く綺麗で整備された商店街や旧草津川公園ですが、ツバメには安全で居心地の良い所ではなくなって来ているのかも知れません。



その後8月上旬まで子育てしている巣が見受けられましたが、その後は旅立ってしまったようです。



アカトンボ(アキアカネ)のふるさと探し



山の麓、里でアカトンボ“アキアカネ”の調査会を実施します。

毎年、マーキングされたアキアカネを麓で捕獲するのは難しいのですが、アキアカネの飛んでいる数を調査して記録に残し経年変化を調べる事も意義がありますので、今年も麓の調査を下記の通り開催することにします。フィールドレポーターの交流会も兼ねておりますので、多くの皆様のご参加おねがいします。

記

場 所 ; 大津市木戸と大津市伊香立の2カ所

日 時 ; 平成26年10月4日(土);10:00~16:00

雨天中止: 中止の場合は8:00頃までに参加申込者に連絡いたします。

集合場所 ; 大津市木戸 志賀清林パーク駐車場(びわ湖バレイ入口から北へ約200m)

集合時間 ; 午前10時、JR 利用の場合は志賀駅着後、当日連絡先宛電話お願いします。

参加費用 ; 保険料 1人100円

持ち物 ; 水筒、雨具、帽子、長袖、長ズボン等ハイキング用具

なお、捕虫網はお貸しできますが、準備できる方は持参してください。

申込み ; 参加ご希望の方は9月30日までに、お名前、電話番号(当日緊急連絡できる番号)、参加希望人数、捕虫網借用数、利用交通機関を記載の上、琵琶湖博物館フィールドレポーター担当 榎永学芸員にお申込下さい。

Eメール : moai@lbm.go.jp

電 話 : 077-568-4811(代表) FAX: 077-568-4850

郵 便 : 525-0001 草津市下物町1091

琵琶湖博物館 フィールドレポーター

(この事業は公益財団法人国際華と緑の博覧記念協会の助成を受けています)

琵琶湖博物館フィールドレポーター 2014 年度第 1 回調査 - II

「身近なシイノキのドングリをしらべてみよう」調査案内を送付しました。

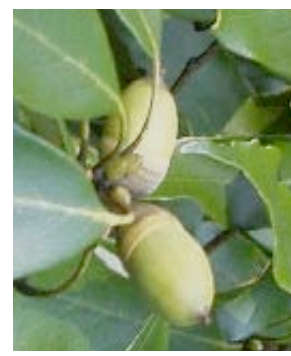
シイノキの花に注目して初夏の短い間に黄金色のカリフラワー状の花を咲かせているシイノキを見つけいただきましたが、秋のシイノキのドングリについても調べて頂こうと、案内させていただきます。シイノキの種類を同定するのは難しいとされていますが、ドングリを観察してみると、大きくて卵状長楕円形のものがスダジイ、小さくて球形に近いものがツブラジイとして同定することが可能といわれています。見つけたドングリを観察して、できればドングリの写真を撮って、ドングリの外観や大きさからシイノキおよびその種類を推定してみてください。そして、別に送付しました調査票に記入して、写真と一緒に送って下さい。ただし、ドングリは送付しないようにお願いします。無理のないところで、家の近くや野山の散策のついでに見つけて頂き、多くの皆様の調査結果をお待ちしております。

スタジイ

ツブラジイ

シラカシ

アラカシ



フィールドレポーター活動報告

定例会は毎月原則として 第1土曜日、第3土曜日に博物館の交流室で行っています。掲示板の最終ページの予定表をご覧ください。その他行事はその都度案内しています。お気軽に参加して下さい。2014年7月から2014年9月までの活動内容は次の通りです。

| 月 | 日 | 場 所 | 参加者 | 主な内容 |
|----|--------|------------|-----|--|
| 7月 | 5日(土) | 交流室 | 9名 | ①アキアカネの調査、案内状印刷発送 ②「びわ博フェスティバル」参加 『オリジナル紙すき葉書を作ろう』に決定 ③トンボ調査の網、GPS発注する。 |
| | 19日(土) | 交流室 | 11名 | ①アキアカネ調査打ち合わせ ②シイノキ調査の中間報告と検討 |
| 8月 | 3日(日) | びわ湖バレイ | 19名 | ①アキアカネ調査 |
| | 23日(土) | 交流室 実験室 | 9名 | ①びわ博フェスティバルの『オリジナル紙すき葉書を作ろう』の準備、練習 |
| 9月 | 6日(土) | 実験室 交流室 | 9名 | ①びわ博フェスティバルの『オリジナル紙すき葉書を作ろう』の実行、30組募集した。 ②秋のアキアカネ調査(10月4日)を実施決定。 ③シイノキとドングリ調査の内容検討 |
| | 20日(土) | 交流室 | 11名 | ①掲示板2号の発行・印刷・発送 ②秋のアキアカネ調査(10月4日)の案内状発送 ③シイノキとドングリ調査の案内・調査票発送 ④アキアカネ調査の打ち合わせ。 |

フィールドレポーター10月～12月予定

次のとおり計画しておりますので皆さんご予定、ご参加お願いいたします。

なお、予定が変更になる場合がありますのでご了承ください。

| | 日 時 | 内 容 | 場 所 |
|-----|--------------------|-------------|------------|
| 10月 | 4日(土) 10:00～16:00 | 秋のアキアカネ調査 | 大津市、木戸・伊香立 |
| | 18日(土) 13:30～17:00 | 定例会 | 博物館交流室 |
| 11月 | 1日(土) 13:30～17:00 | 定例会 | 博物館交流室 |
| | 15日(土) 13:30～17:00 | 定例会 | 博物館交流室 |
| 12月 | 6日(土) 13:30～17:00 | 定例会 | 博物館交流室 |
| | 20日(土) 13:30～17:00 | 定例会、掲示板3号発行 | 博物館交流室 |

(おことわり；上表の博物館とは琵琶湖博物館のことです。)

編 集 後 記

秋の収穫、行楽の季節を迎え皆様には心浮き立つこの頃ではないかと推察しております。さて、9月6日は「発見 びわ博フェスティバル」が開催され、フィールドレポーターオープンハウスは「オリジナル紙すき葉書作り」で、来館された皆様楽しんでいただきました。お子さんと親御さん達が知恵を出し合って紙すきに熱中される様子を見ていると担当したスタッフも遣り甲斐がありました。

10月4日(土)にはアキアカネが山の麓で飛んでいる様子を調査に出かけます。交流会を兼ねていますし、捕虫網もお貸しできますので、案内状を確認のうえ参加おねがいします。

第1回目の調査「身近なシイノキとその花をしらべてみよう」の続きとして、秋にはシイノキのドングリ調査も案内しています。行楽のついでにシイノキのドングリを見つけて、調査票に記入して返送してください、待っています。

掲示板の投稿もおねがいします。身の回りのこと、こんなことを見つけた、こんな写真が撮れた等ご気軽に投稿して下さい。

(担当 FRS 椋島)



滋賀県立
琵琶湖博物館
交流センター

〒525-0001 草津市下物 1091
TEL 077-568-4811 (代) FAX 077-568-4850
E-mail: freporter@lbm.go.jp

掲 示 板

2014年度第3号通巻第77号2014年12月20日



ヨメナ

2014年もあと残すところ僅かとなりました。本日は、掲示板77号という縁起のいい番号でお届けできますのも、フィールドレポーターの皆さまのおかげです。感謝いたします。

さて、琵琶湖博物館では2年後の開館20周年を迎えるにあたり、展示室のリニューアルの準備を進めているところです。展示室のリニューアルだけに留まらず、フィールドレポーター制度をはじめとする琵琶湖博物館の交流活動についても、さらに活発に進めていきたいと考えています。

そこで、まず第一弾として、今までフィールドレポーターとはしかけの会員名簿は個別に管理されていましたが、これを一元管理にしてお互いの活動情報の共有化を進めていきたいと思えます。これまで両制度に参加されている方にご不便をかけてきましたが、今後は更新手続きが一元化されますので、更新忘れは解消されるかと思えます。今回の「和服」調査は、はしかけのみなさんにもお声かけをして、より多くの方のご参加をお待ちしています。フィールドレポーターの皆さまも、お知り合いの方に「和服」調査についてご紹介して頂ければと思えます。最後になりましたが、来年も皆さまにとり、良い年でありますように。

フィールドレポーター担当学芸員 榎永一宏

もくじ

| | | | | | | | |
|----|------------------|------|-----|----|------------------------|-------|-----|
| 1 | 巻頭言 | 榎永一宏 | 1p | 2 | シノキ・ドングリ調査中間報告 | 椛島昭紘 | 2p |
| 3 | 2014年秋のトンボ調査結果 | スタッフ | 4p | 4 | 冬の調査のテーマは「和服」 | 前田雅子 | 5p |
| 5 | 着物はすばらしい | 津田國史 | 6p | 6 | 大きいことは好いこと？突然変異か | 津田國史 | 7p |
| 7 | 色を言葉で伝えるには | 加固啓英 | 8p | 8 | ゲッコウ・ヤモリ(守宮)、トッケイ(大守宮) | 加固啓英 | 8p |
| 9 | 殺虫剤不要論 | 加固啓英 | 9p | 10 | 水草のエタノール | 加固啓英 | 9p |
| 11 | 琵琶湖博物館発マーキング・ルール | 加固啓英 | 10p | 12 | 旧草津川周辺、アキアカネ観察 | 草津野遊人 | 10p |
| 13 | FR活動報告 | | 11p | 14 | 今後の予定・編集後記 | | 12p |

「身近なシイノキのドングリをしらべてみよう」中間報告

(12月6日までにお寄せいただいた調査票のまとめ)

調査期間は10月～12月末迄です。ドングリが実って地上に落ちた頃、実を拾ったり、写真を撮ったりして調査をお願いしました。12月6日まで29件の調査結果を頂きました。有難うございます。そして、調査が済んでおられる方はぜひ送付お願い致します。

1、全調査地点

Fig 1に示す通り、28メッシュコード
(世界基準)です。 湖南、湖北、湖東から
調査結果をいただきました。

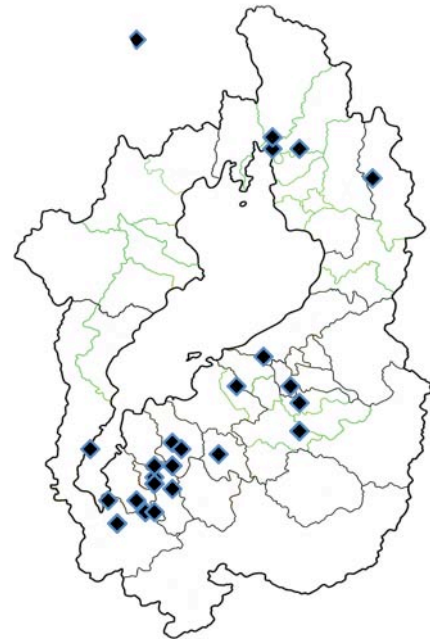


Fig 1 全調査地点

2、調査地点の環境

Fig 2に示す通り
神社・寺52%、学校・公園36%、山林12%
でした。

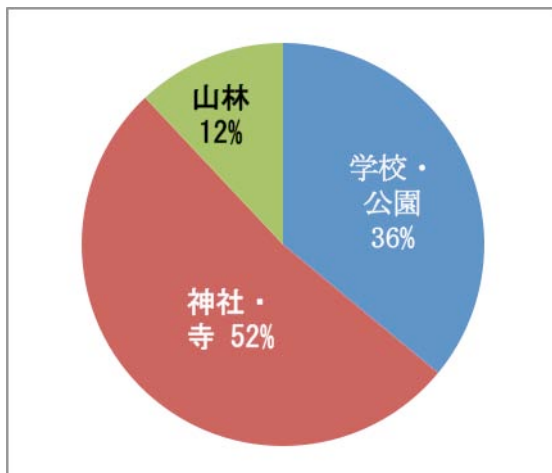


Fig 2 調査地点の環境

3、調査された木の幹回り

Fig 3の通りで、幹回りの小さい
若い木が多く観察されています。
そして、幹回りの大きい樹齢の永い
木も有ります。

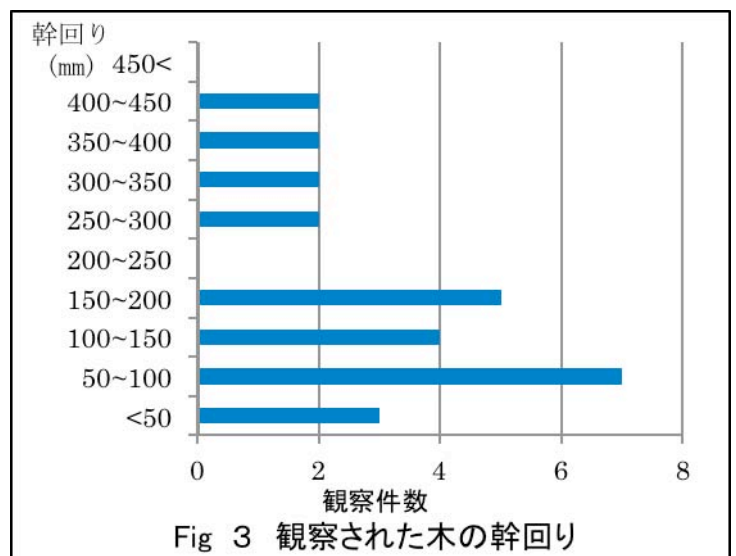


Fig 3 観察された木の幹回り

4、ドングリの観察結果

皆さんから報告されたドングリの種類別の分布は次の通りです。

Fig 4スタジイ、Fig 5ツブラジイを示しました。

観察された地域はどちらもよく似た結果になっています。

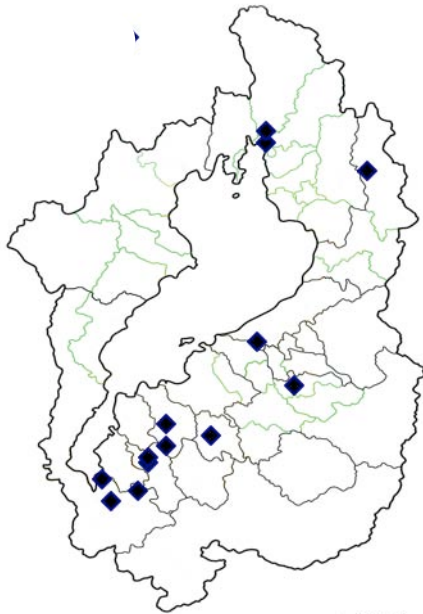


Fig 4 スタジイ

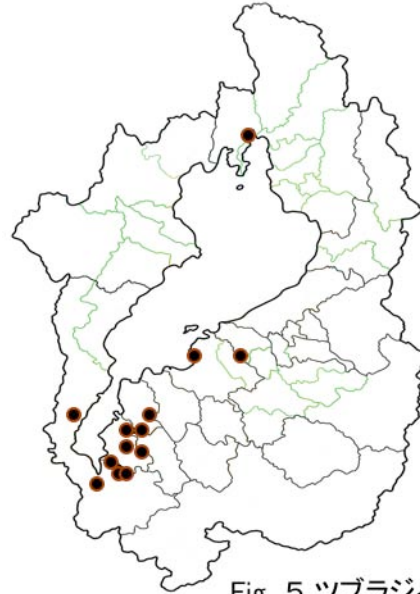


Fig 5 ツブラジイ

5、観察されたドングリの長さ

シイノキのドングリで種類判断する目安として、ドングリの長さを調査票に記載しました。次の通りです。

ツブラジイ:6~13mm

スタジイ :12~20mm

報告されたドングリ長さの分布をFig 6に示します。

12~15mmの間に多く分布しているのが種類の区別に迷われた方もあったのではないのでしょうか。スタジイとツブラジイの2種類が交配により中間の物ができているという報告もありますので、その結果かもしれません。

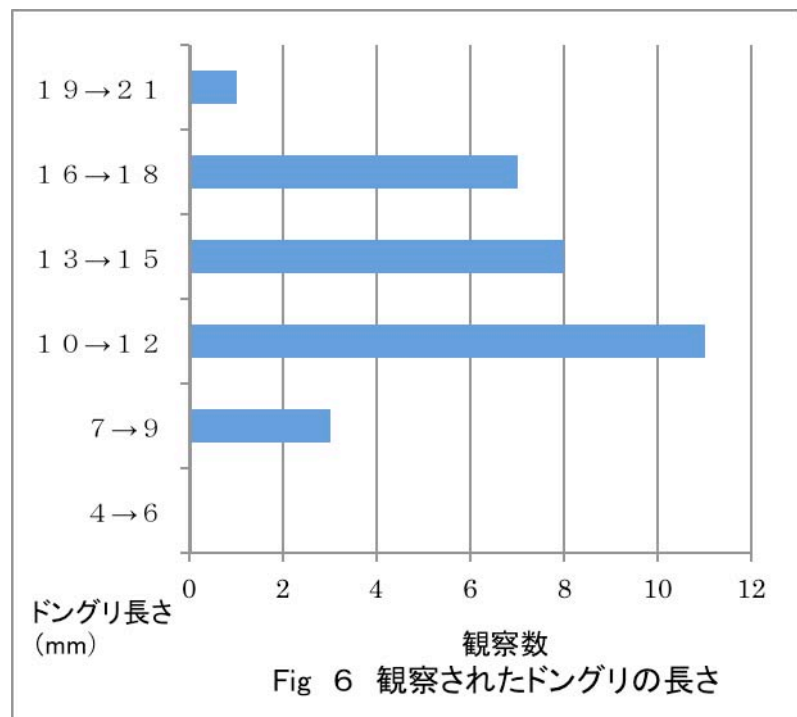


Fig 6 観察されたドングリの長さ

2014年度秋のトンボ調査結果

(山の麓、里でアカトンボ“アキアカネ”の調査会を実施しました。)

10月4日(土)に蓬萊山の麓、大津市木戸周辺と大津市伊香立で実施しました。当日は朝から好天に恵まれ、多くのアキアカネに会えると期待に胸を躍らせ、11名の参加者が集合場所の蓬萊山の登り口近くの大津市木戸の清林パークに集りました。

調査した場所は地図に記載した4ヶ所です。午前と午後に場所を変えて調査しました。地図には参考のために夏の調査をした蓬萊山基準で地図上での距離も示しました。

調査方法は、できるだけ捕獲してマーキングの有無も確認しました。

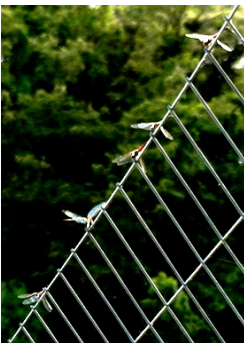
午前の調査は10時15分から約1時間、木戸清林パークを基地にして大津市木戸、南小松、南船路3ヶ所に分かれて開始しました。ただ、清林パークでは見つかる数が少ないので心配でしたが、結果は表の通り合計50頭以下と数が多くない、「この好天の状況で見つからないのはなぜか？」と思いました。清林パークで昼食して、午後の調査場所に移動しました。

午後の調査は12時45分から約1時間、大津市伊香立生津町を基地にして、伊香立南庄、伊香立向在地の3ヶ所に分かれて開始しました。この場所は昨年秋の調査の時に、観察の結果、100～1000頭位飛んでいたと、報告を頂いた場所です。結果は表の通りで場所によりばらつきも有りますが合計800頭以上確認できました。多く確認できて良かったです。

最後に集合場所で結果報告と意見交換しました。今年の秋の調査は終わりましたが、マークの付いたアキアカネは見つかりませんでした。

皆さんお疲れ様でした。

| 調査時間 | 地図地番 | 場所(町) | 調査者数(名) | アキアカネ頭数 |
|------|------|--------|---------|---------|
| 午前 | ① | 木戸 | 3 | 15 |
| 同上 | ② | 南小松 | 3 | 28 |
| 同上 | ③ | 南船路 | 4 | 4 |
| 午後 | ④ | 伊香立生津 | 3 | 46 |
| 同上 | ④ | 伊香立南庄 | 3 | 627< |
| 同上 | ④ | 伊香立向在地 | 5 | 117 |



柵に並んで止まっていた



(この事業は公益財団法人国際花と緑の博覧記念協会の助成を受けています)

冬の調査のテーマは「和服」

フィールドレポーター・スタッフ 前田雅子

—いつの間にか少数派に—

テレビアニメの中で、サザエさんのお母さんは家で和服姿、サザエさんもあらたまの訪問をする時には和服を着て出かけていますね。けれども現在では、私たちは洋服を着るのが当たり前で、和服をほとんど着ないように思います。今では、和服は風前の灯なのでしょうか。

この冬のフィールドレポーター調査は、私たちの衣服について昔を振り返りながら、和服の着用を考えてみたいと思います。といっても、今回は難しいことは何にもありません。暖かい部屋で、気軽に書いていただけますので、皆さまどうぞたくさんのお答えをお寄せください。

—和服を着たことがない!?!—

「和服なんか縁がないわ!」と思われる方が多いかもしれません。けれどもこれまでの人生の中で何度か和服を着た経験をお持ちではないでしょうか。例えば「小さい頃は寝間着だった」「成人式でレンタルをした」「空手の練習で着た」等々。思い出をたどるために、ご自身の写真アルバムを開いて見るのもいいですね。

—呉服屋さんの調査ではないので—

ところで、和服というと真っ先に晴れ着を思い浮かべますが、浴衣(ゆかた)・甚平(じんべい)・綿入半纏(わたいれはんてん)などの普段着はもちろん、板前さんの調理服・店員さんのユニフォーム・作業衣(さむえ)などの仕事着もあります。また、柔道や弓道などで着るスポーツ着も洋服ではないので、和服に含まれます。

このように和服の範囲を少し広くとらえると、意外に多くの方が、多くの場面で着ているように思うのですが、皆さんはどう思われますか。現在の和服着用は少なくなっているのか、それとも形を変えながら継続しているのか、調査票が返ってくるのが楽しみです。

和服ウオッチング

和服を調査することが決まってから、和服ウオッチングをしてみました。

すると、スーパーで買い物をしている和服のおばさまがいたり、

居酒屋のお兄さんの和服姿がカッコよかったり、また、

若い男性の手拭被り(てぬぐいかぶり)が結構多いことにも驚きました。

そういえば、前のフィールドレポーター担当学芸員の林さんは

手拭愛用派のようですよ。

着物はすばらしい

FRS 津田 國史

祖母か祖祖母かが織った縦縞の綿織物がわが家に伝わっている。この、「手織綿反物」を私用に母が仕立ててくれていたので、いつも初夏からこの単衣を着用していた。着丈はやや寸詰まりで、裾丈も少し足りない思いながらそれもまたすずし気で、袖先や脛が初夏の候にはさわやかだった。

帯は博多帯でなく兵児帯をめていた。博多帯はめる手間がわずらわしいのと、なんとなく改まった感じがして、手織の着物にはくだけた感じの兵児帯が合うと決めていた。

色も紺系統で、切れ切れに続く木綿の手織ならではの細かい白縞が何とも言えず嬉しく、わが家の昔の誰かが織ったこの織物を私の唯一の着物と心得て重宝していた。何反かある着物の内で私が最も好んだ着物ではあった。

冬の丹前も悪くはないがなんとなく野暮ったく、丹前や袴を脱いでこの単衣が着られる初夏の候が待ち遠しかった。この着物は普段着であるから改まった所へは着ていけないのが哀しく、おなじような柄の外出着はないものかと探したこともある。だが風合い、感触が手織木綿の反物に匹敵するものはなかった。あのシャキッとした風合いは手織綿ならではの感触であり、他のどれも真似の出来ない感触だ。私にはこの感触が体に染みついているからか、綿のスーツもまた好みである。初夏に着る生成り綿スーツや、コードレインなどを愛用していた。

数年前、京極の古着屋で見つけた紬は、私の好みにぴったりであったので、さっそく袖を通してみたら、裾丈が足りない。余りに短い裾丈では誤魔化しようがないので諦めたことがある。

私が着物を着なくなったのはあの手織綿の単衣が擦り切れだして、仕立て直しても繕えないまてになったのと、母が着物の仕立が困難になったからで、それさえなければずっと着ていたかも。

袴も私は好きだ。羽織袴と言うと改まった着物にはなるが、袴のあの折り目の通った立姿は、着る者を素晴らしく見せてくれる。能舞台で観る演者のあの袴姿にはほれぼれさせられるものがある。先年、祇園の茶屋で舞う男の裾さばきに目を凝らしていたことがあり、着物の裾から見える足袋の白さに、着物との相性を知らされた。

私の知り合いに日本舞踊の名取が居るので、その踊りを見に行くことがある。さすがそんな席には着物姿の女性が多いが、すっきりと着こなした着物姿の男性を見る機会でもあり、羨ましい思いにさせられる場所でもある。

先日、日文研のフォーラムで、着物姿の色模様の美しさを解説され、映し出された艶やかな着物の色柄を見て、素晴らしいものを私たちは持っていたのだと誇らしい思いに浸っていた。そしてこれを着る楽しみを残してくれた先人に改めて感謝の念が湧いていた。

大きいことは好いこと？ 突然変異か

FRS 津田 國史



左 今年の収穫みかん 右 市販のL・Mサイズ

温州みかんの苗木をわが家に植えてから 8 年が過ぎた。樹の生育状況は普通だったが、果実の生るのに数年かかった。生りだしても数個の貧弱な果実はどうい賞味の対象にはならなかった。果実は諦めて樹の成長だけを願った世話をしていた。

昨年、突然に果実が多く生りだした。小さいのも数えると 70 個ほどの果実が樹高 1m 余りの樹に鈴なりに生って、果実の重さで枝がたわみ、低い枝先の実は地面に着く様だ。近所の人から“実の重みで枝が

裂けるでえ？ 枝に支えてやらんとあかんで！”と言われ竹で突っ張りをしてやった。採れた実は甘味が足りずあまり美味しいみかんではなかった。特に中味の背の皮と果肉との離れが悪く食べるのに困った。

今年はどうなるか気にしていたら去年を上回り、9 月初めに 30 個ばかり摘果した。10 月に入ると黄ばみだし、果実のサイズも少し大きく感じるようになった。11 月、サイズはどれも温州みかんの標準を超えるものになった。色は日ごとに赤味を増し、もう完全にみかん色だ。

11 月中旬に普通の温州みかんをはるかに上回る夏ミカン大の果実を 50 個。平均的な 1 個が 300g 実の回りが 285mm、直径 87mm で、どれも温州みかんとは言えない巨大な果実を収穫した。摘果したのが大きくなった要因だとは思いますが、その時点で、すでに普通の温州みかんの M サイズを上回っていたし、去年も今年ほどではなかったが、けっこう大きいサイズではあった。樹高 1m 余りの樹に夏ミカン大の 70~80 個の温州みかんが生るのは突然変異なのか。

好物の温州みかんをたっぷり食べたいとの思いから、苗木を買って植えたのだが、今年のような結果になると、味の良い食べやすいみかんにする術を考えねばならぬ

近年、果実がなべて大きくなり、ドでかい梨には驚いているが、わが家の温州みかんも世の流れに沿って、大きいことは好いことと囃しているのか。ならばこの樹を拡散する術を考えてもいいか。



収穫前 陽に映えるデカ温州みかん

表 題 [色を言葉で伝えるには]

投稿日 [201406**]

彦根市 加固啓英

私の手元に、主婦の友生活シリーズ「色の名前(福田邦夫)」と云う、ページ数440、縦×横×厚さ≒144×85×21mmの本が有りますが、確か発売間も無い平成8年頃に書店の店頭で見て買った物だと記憶しています。

記載の色数は384色程有りますし、和名も外国語名も記載され、伝統的色名の「京紫」と「古代紫」の違いも分かり、まるでピンと来ない「黄つるばみ(←漢字変換不能)色」や「瓶覗(かめのぞき)」等も実見出来ますし、外国語の「ドプラ」や「ボトル・グリーン」と云った馴染みの無い色名も調べられます。

これを自然科学系の博物館や研究者の手元に、更には自然科学マニアの必携にすれば微妙な色を言葉で伝える手段としての強力なツールになると思います。

購入時は1400円(税込み)でした。末尾18ページに渡り「配色の基本と効果」の記載が有り、8年間ほど色材関係の仕事をしていた私にも考えさせられる点が多々有ります。残念なのは原色の配合割合だけで、例えばYR6/12と云ったマンセル表色系での表記が無い事です。

マンセル表色台帳は飛んでもなく高価で大判で、何処にでも有る物では無く、貴重・高価で手軽にフィールド等で照合する事は先ず不可能ですが、「色の名前」を持つ相互間では、例えばスタジイの葉の裏を照合すれば緑系のウィロー・グリーン(Willow Green)の言葉で相当正確に伝えられますが、マンセル・ナンバーなら更に簡素で正確に伝達も出来ますし、記録にも残せます。

追記、朗報です！「マンセルNo.」の記載された増補版的なページ数304、縦×横×厚さ≒210×15×29mm、1ページ2色記載の507色の「色の名前507」が刊行された事を新聞広告で知り、即日購入しました。本体価格は2500円でした。

表 題 [ゲッコウ・ヤモリ(守宮)、トッケイ(大守宮)]

投稿日 [20141007]

彦根市 加固啓英

私は今世紀に入り、定年退職後の60歳を過ぎてマレーシアのMt・キナバル(4095m)に登山し、二合目程から全行程を脚力で登頂出来ましたが、残念ながらこの高さは僅かにエヴェレストの半分に達しません。

その近くでパプアニューギニアにMt・ウイヘルム(4894m)が有り、これなら $4894 > 4394 = 8788$ でエヴェレストの半分以上に達成可能な筈です。

75歳を過ぎた今、冥土の土産話に登頂したいと思っていた矢先に、立て続けて三連続入院、リハビリの合間も無く通院で足腰の筋肉が痩せ衰え、腰は曲がり、スペース・ラボ帰りの宇宙飛行士状態。

現在は目的意識を持って鋭意体力増強中です。

マレーシアの瀟洒なホテルの高い天井に、全長が(頭胴長でなく)30cm程も有る大守宮(オオヤモリ tokay)が逆さに張り付いていたのを多くの宿泊客は気にも留めていない様子でした。

私には、相当な重量感が有り、視覚的にも二乗三乗の法則($c f - *$)から見ても、落ちず張り付いていられるのが不思議に思われました。

わが家の玄関扉の上のガラスの部分に夜な夜な守宮(ヤモリ)が現れ、光に寄せられた虫を採餌していますが、今未明、台風18号の大荒れの中、玄関から10m程のベッド迄、今まで聞いた事の無いチッチッチッチッ…の音が(「チッ」が18回前後繰り返される。)聞こえて来ます。

玄関前にコンクリートの駐車スペースを作った後、しばらくは見られなかったので旧友に再会した気分です。

* 相似形の長さがn倍になれば、その面積はnの平方(自乗、2乗)、体積・重量はnの立方(3乗)となる筈。オオヤモリの体長が普通のヤモリのn倍とすれば重量はnの立方(3乗)、天井に張り付く面積はnの平方となり、足裏の面積当たりの重量は $n^3 / n^2 = n$ からn倍の重さを支える必要が有る。

表 題 [殺虫剤不要論]

投稿日 [20141007]

彦根市 加固啓英

夜な夜なキッチンの透き間から現れ、食器や食材の上を靴も脱がずに歩き回るポリオのアンバサダーのゴキブリに市販の殺虫スプレーで立ち向かってもタッチダウンは先ず無理で、元の透き間に逃げ込まれるのが落ちです。

そのゴキブリにも、 Dengue 熱で名を馳せたヒトスジシマカにも、菊や薔薇の花茎に取り付き萎れさせてしまうアリマキにも、鎧袖一触、猛烈に痛痒いイラガの幼虫にも、無害・無農薬で殺虫効果抜群の物を御教えします。

それは食器用洗剤を添加した水道水です。

洗剤で撥水性を殺して濡れ性を増し、昆虫の呼吸器官の気門から内部まで水没させる溺死・窒息死ですから「人畜無事・昆虫必殺」です。

ペットボトルに付けられるトリガー付きスプレーノズルは2個で108円です。どなたか、これで以上発生するアメリカシロヒトリに立ち向かい、結果を報告して頂きたいです。

表 題 [水草のエタノール発酵]

投稿日 [20141007]

彦根市 加固啓英

以下は、発酵・醸造に詳しい方のアドバイスを御願いしたい件です。

澱粉・糖分の様には可溶性・水分散性ではない多糖類のセルロースをエタノール発酵させる手段は無いのでしょうか。

もしこれが可能なら琵琶湖に異常繁茂する水草を、牧草を発酵させるサイロの様な貯蔵・発酵槽に積み上げて発酵させ、上から散水して流下した水溶液からエタノールを水と共沸回収し、泥やゴミ等の夾雑物も濁水由来の化学肥料等の不純物も問題にならない筈ですし、町内の清掃で発生し、焼却処分に回される多量の雑草も同様に大きな資源になる筈です。

複数の百科事典を読みましたが「サイロで牧草を発酵させて保存する」とは有りますがセルロースが主成分の牧草が発酵して何が生成され、どうして保存性が良くなるかの説明は有りませんでした。

メタン発酵 : 二酸化炭素・ギ酸・酢酸→メタン (メタン細菌)

酢酸発酵 : エタノール→酢酸 (酢酸菌)

クエン酸発酵 : 糖・炭水化物→クエン酸 (クロカビ、アオカビ等)

以下、イタコン酸発酵、グルコン酸発酵、酪酸発酵、アミノ酸発酵、等に付いても原料は「糖」「糖など」の記載しか無く、セルロースの様な高分子多糖類の発酵・醸造に付いては言及されていませんでした。

表 題 [琵琶湖博物館発のマーキング・ルール]

投稿日 [20141007]

彦根市 加藤啓英

かなりの大事業とはなりますが、琵琶湖博物館発案でのアキアカネやアサギマダラのような季節移動する昆虫類や渡り鳥類の日本全国□世界共通の統一のマーキング・ルールを定め、アルファベット7文字のインターネット検索で、団体名、採取・放出場所、日時、生物の種、の読み取れる物とし、琵琶湖博物館がブッキングする仕組みは作れません。

J(日本)が始まりでアルファベットを連記する形式にします。

個体へのマーキングは、JAA□JZZの3文字(団体名26の2乗=676団体、更に必要があれば一字増やす事も検討可能)、放出場所AA□ZZの2文字、調査・採取・放出会合の数をAA□ZZの2文字とします。

放出位置(地名、及びカーナビの位置情報)、年、月、日、時、その日の天候、風向き、放出個体数、等はインターネットで検索可能とし、アルファベット表示とします。

* 個人情報の氏名は読み取り不可とし、特に必要があれば所属団体への問い合わせとし合います。

* 例えばフィールドレポーターをJAA、琵琶湖博物館をABとし、アサギマダラの第一回放蝶をACとしますと、マーキングはJAAABACとなり、7文字のマーキングのインターネット検索で「アサギマダラ」を「琵琶湖博物館」から放蝶した事や「同時に放蝶した生物種」や「個体数」や「その天気・風向き」等が読み取れる仕組みとします。

表 題 [旧草津川周辺のアキアカネの観察]

投原稿日[20141215]

草津市 野遊人

この秋、散歩しながら、旧草津川上流から野村少年運動公園の間、三池運動公園周辺を写真を撮りながら、アキアカネを観察してみました。どうも気になることに、今年はアキアカネの見られる数が少ないようです。

旧草津川公園で秋にトンボを多くみかける場所は旧草津川のJR線路(草津駅近く)と交差する場所より東に約20m位に有る橋から、旧川の上流側約100m位の所(草津市大路1丁目)が昨年多く飛んでいました。この場所はアーケード商店街の上当たりで賑やかな場所です。多い時は15分で50頭ぐらいみられていました。ところが同じ時期に今年は10頭見るのがやっとです。旧草津川は夏から整備工事が始まり、JRのトンネルから上流の旧東海道橋迄の間は立ち入りが禁止されて重機が毎日のように動いています。そのせいでしょうか?

西矢倉2丁目の頓蓮池横(伯母川)沿い、この場所は水辺と林、田んぼが有って環境に恵まれていて、大路1丁目に比べて何倍もアキアカネが多く飛んでいる場所です。ところが今年は昨年3割ぐらいしか見かけません。

今年は少ないのです。散歩の楽しみが減ってきているように感じています。

フィールドレポーター活動報告

定例会は毎月原則として 第1土曜日、第3土曜日に博物館の交流室で行っています。掲示板の最終ページの予定表をご覧ください。その他行事はその都度案内しています。お気軽に参加して下さい。2014年10月から2014年12月までの活動内容は次の通りです。

| 月 | 日 | 場 所 | 参加者 | 主な内容 |
|-----|--------|---------|-----|--|
| 10月 | 4日(土) | 大津市木戸集合 | 11名 | ①秋のアキアカネ調査 大津市木戸周辺、大津市伊香立生津周辺で実施。 |
| | 18日(土) | 交流室 | 6名 | ①秋のアキアカネ調査の反省会 来年どうするか検討 ②冬の調査テーマの検討 |
| 11月 | 1日(日) | 交流室 | 7名 | ①冬の調査のテーマ検討 |
| | 15日(土) | 交流室 | 7名 | ①冬の調査「和服」の調査票の検討。 |
| 12月 | 6日(土) | 交流室 | 10名 | ①冬の調査「和服」の調査票の検討。(12月20日発送予定)に決定。 |
| | 20日(土) | 交流室 | 10名 | ①掲示板3号の発行と印刷して発送 ②冬の調査「和服」の調査案内・票印刷して発送 |



フィールドレポーター 1月～3月予定

次のとおり計画しておりますので皆さんご予定、ご参加お願いいたします。
 なお、予定が変更になる場合がありますのでご了承ください。

| | 日 時 | 内 容 | 場 所 |
|----|--------------------|-------------|--------|
| 1月 | 10日(土) 13:30~17:00 | 定例会 | 博物館交流室 |
| | 24日(土) 13:30~17:00 | 定例会 | 博物館交流室 |
| 2月 | 7日(土) 13:30~17:00 | 定例会 | 博物館交流室 |
| | 21日(土) 13:30~17:00 | 定例会 | 博物館交流室 |
| 3月 | 7日(土) 13:30~17:00 | 定例会 | 博物館交流室 |
| | 21日(土) 13:30~17:00 | 定例会、掲示板4号発行 | 博物館交流室 |

(おことわり；上表の博物館とは琵琶湖博物館のことです。)

編 集 後 記

今年も師走になりました。12月17日に発生した「爆弾低気圧」で各地に風雪をもたらしまし、自然の厳しさを見せつけくれました。皆様のところでも被害が出ているのではないかと案じております。

シイノキのドングリ調査もご協力有難うございます。調査お済みの方調査票の返送をお願いします。そして、今年度の冬の調査、着物(和服)について皆さんが日頃感じておられることを、調査票に記入して返送してください、待っています。

掲示板の投稿もおねがいします。身の回りのこと、こんなことを見つけた、こんな写真が撮れた等ご気軽に投稿して下さい。

(担当 FRS 椋島)



滋賀県立
琵琶湖博物館
 交流センター
 〒525-0001 草津市下物 1091
 TEL 077-568-4811 (代) FAX 077-568-4850
 E-mail: freporter@lbm.go.jp

掲 示 板

2014年度第4号 通巻第78号 2015年3月21日



トサミズキ

博物館から見える比良山の雪も消え始め、春の訪れを感じられるようになりました。みなさんの冬の間の活動は如何でしたでしょうか？

私はこの冬の間、休日を利用してある施設のボランティア養成講座に（4ヶ月も！）通ったり、全国ボランティアコーディネーターの研究集会に参加したりしていました。一般の方々がどのような思いでボランティア活動に参加しているのかということの一端が見えてきました。この経験をもとに、琵琶湖博物館には何が足りないのか、あるいは伸びしろはどこにあるのだろうか日々考えているところです。

さて、今回のはしかけの登録更新時にフィールドレポーターの登録を呼びかけてみたところ35名の方が新たに登録して下さいました（3月18日現在）。今後はフィールドレポーターの活動情報についても、はしかけのみなさんに積極的に伝え、より多くの方に参加していただきたいと願っています。

来年度も、みなさんとともに、フィールドレポーターの活動をますます楽しく、活発にしていきたいと思います。

フィールドレポーター担当学芸員 榎永一宏

もくじ

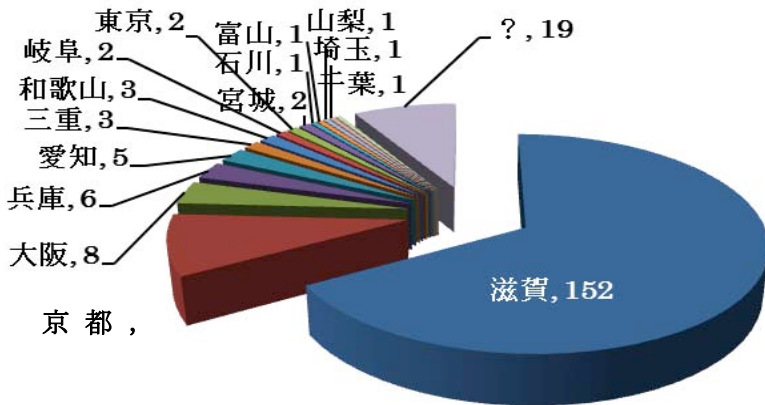
| | | | | | | | |
|---|----------------|------|----|----|--------------|------|----|
| 1 | 巻頭言 | 榎永一宏 | 1p | 2 | 「和服大調査」中間報告 | 森 擴之 | 2p |
| 3 | 世界測地系と日本測地系 | 村上靖昭 | 3p | 4 | 初投稿します | 大橋義孝 | 4p |
| 5 | 花燃ゆ思い 旧草津川跡地 | 久保和友 | 5p | 6 | わからぬ話 | 加固啓英 | 6p |
| 7 | 「タンポポ調査」始まりました | スタッフ | 6p | 8 | 新年度第1回交流会の予告 | スタッフ | 6p |
| 9 | FR 活動報告 | スタッフ | 7p | 10 | 今後の予定・編集後記 | スタッフ | 8p |

琵琶湖博物館フィールドレポーター2014年度第2回調査

「みんなも着ている！？ 和服大調査」

中間報告

昨年末から本年初めにかけて実施致しました『和服大調査』では、レポーターの皆さんに調査票をお送りして、参加をお願いするとともに、博物館展示室にも調査票を設置して、来館者の参加をお願いした結果、15都道府県在住の229人の皆さんから、回答を頂きました。



今回の調査は“きもの”に関することから、女性の関心が多いのか、回答を頂いた方も、女性156人に対して、男性は57人と女性の3分の1強と少ない数となりました(Fig 3)。

詳細報告書は、5月中完成の予定で、現在集計解析を行っており、完成次第、「2015年度第2号(通巻44号)」として、お届けする予定です。

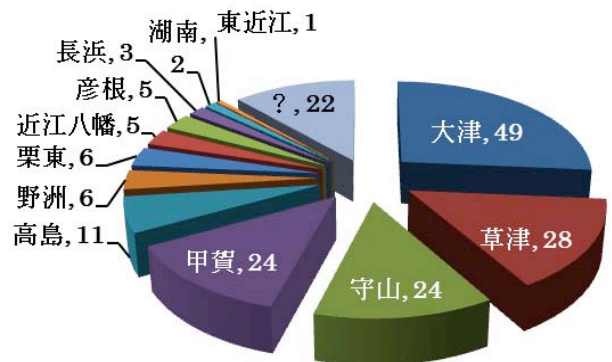


Fig.2 滋賀県内回答者数

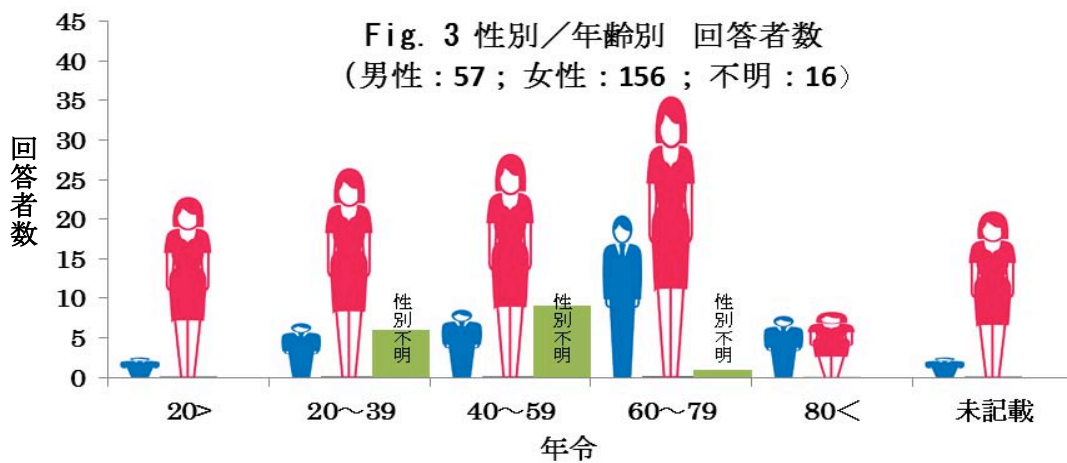


Fig. 3 性別／年齢別 回答者数
(男性：57；女性：156；不明：16)

(集計担当:FRS 森 擴之)

世界測地系と日本測地系

FRS 村上靖昭

これまでのフィールドレポーター調査やその他の自然観察調査の際、その位置情報(緯度・経度)が世界測地系なのか日本測地系かの選別を要求された経験をお持ちの方は多いでしょう。また、同じ位置であるのに、スマホやGPSなどによって緯度経度が少々の誤差(数m~数十m)を超えた値を示していることもあるでしょう。

そもそも測地系とは、地球上のそれぞれの位置を緯度と経度で表すための基準で、日本では明治時代5万分の1の地形図を作成するために整備され、天文観測によって決定された経緯度原点(東京都港区にあった旧国立天文台跡地)の値と原方位角を基準として構築されたものが日本測地系です。これもその後の測量機器・技術の発展や地殻変動によって、東京から見れば札幌の位置が西へ約9m、福岡の位置が南へ約4mずれていることがわかっています。

同様に、各国それぞれに測地系が定められていますが、自国のみを対象としているので、その時期や構築にあたっての詳細な手法や精度が異なり、航空機の往来など高精度のお互いの位置情報のやり取りが一般化されてくると、支障を生じる可能性も出てきました。極端に言えば、世界地図で表すと国と国が重なっていたり、つながっている陸地が離れていたたりすることも起こりうるわけです。…でも、世界地図のほとんどは1千万分の1以下ですから、地図上でのずれは、せいぜい0.1mm程度のものですが…。

それらの支障をなくすため、世界共通の測地系として、地球の重心に原点を置き、電波星から届く電波を電波望遠鏡で受信して、数千kmもの長距離を数mmの高精度で測る技術や人工衛星観測に基づいて設定されたのが世界測地系です。

日本も世界測地系に適應するため、2001年6月12日に測量法の一部が改正、翌年4月1日に施行され、位置情報を世界測地系に基づく緯度経度に変更されました。

では、日本測地系は、世界測地系とどのくらい違っているのでしょうか。

関西付近では、日本測地系の経緯度で表されている地点を、世界測地系の経緯度で表すと、経度が約-10”、緯度が約+11”変化します。これを距離に換算すると、北西方向へ約430mずれることとなります。因みに琵琶湖博物館玄関先は、日本測地系でN35° 04' 14. 11” E135° 56' 15. 62”ですが、世界測地系ではN35° 04' 25. 85” E135° 56' 05. 49”です。

すでに測量法が改正されたとはいえ、2002年以降の国土地理院発行のものを除き、現在市に出回っている地図やGPS・ナビの中には、少なからず日本測地系のまま標準設定されているものがあります。そのため、正確な位置情報を知るためには、日本測地系で求めた数値なのか、それとも世界なのかということが重要になってくるのです。順次、各社・各メーカーとも世界測地系に設定変更されると思いますが、気を付けましょう。

小生が現在使用している県別マップル2012年版は世界測地系です。GPSは設定を標準設定のTokyoからWGS84に変更して使っています。また、古くからのフィールドレポーターの皆様にも配布されている環境庁発行のメッシュマップは日本測地系です。

(国土地理院ホームページ参照)

初投稿します

米原市 大橋義孝

シーズンはずれで、遅くなってしまった内容ですが。2014年の6月と8月に私にとっては珍しい蝶を見つけたので紹介します。

仕事に出るあまり余裕のない時で、蝶も写されることを意識していないのでいいアングルで写させてくれなかったのですが、模様のわかりやすいものを添えます。2カ月の間があるので、羽の縁の色具合が少し変わっていますが同一種だと思えます。(インターネットで調べたら ツマグロヒヨウモンと言う種類だと思うのですが)



花燃ゆ思い 旧草津川跡地

草津市 久保和友

旧草津川は上流の金勝山々系の砂が流されて琵琶湖へ注ぐまで天井川として草津市の町の上を流れた。堤防が切れて町中大洪水となったことが江戸時代からの古文書でもわかる。

その草津川が新しく付け替えられてから廃川となって水は流れない。無用の長物となって新しい道路が市中を横断させるため数ヶ所が切断された。

1月12日市民フォーラムが開催され、ランドスケープデザイナー忽那裕樹さん、山崎亮さん(コミュニティーデザイナー)ほか、市民運動として考えていく催しもあり、公園化の工事も始まったばかり。両岸は車も人も通れて公園化の工事がいま暫くは市民など観光客は見られる。

桜の名所でもあった。いま堤防はタンポポなど春の花が美しい。花燃ゆ思いで公園化を見守りましょう。



テーブルの上に卵を立てて大見栄を切ったオッチャン、コロンブスが生涯中南米をインドの一部だと信じていたとの事がどうにもわからぬ、信じられない。

三回の渡航中、ヨーロッパとの交易の有ったインドなら言語の通じる人に全く会えない筈が無い。遠洋航海に必携の羅針盤(compass)や六分儀(sextant)で天測をして経度にして、約120°の中南米とインドをどうしたら間違えられるのか？

アメリカ大陸発見(本当の発見、移住は我々日本人の仲間のモンゴロイドの北極圏廻りの、アメリカ南北大陸のネーティブの祖先でしょうが。)以前の旧世界の食料事情はどのような物だったのだろうか。

新世界原産の農作物を以下に列記して見ますと。トウモロコシ(玉蜀黍←唐・唐土)、カボチャ(南瓜≡カンボジア、南京、唐茄子)、サツマイモ(薩摩芋、カライモ、トウイモ、リュウキュウイモ、アメリカイモ)、ナスを除いたナス科三兄弟のトウガラシ(含;ピーマン)、トマト、ジャガイモ。探せば他にも沢山有ると思います。

御丁寧にも日本への移入経路情報の別名が付いているのです。※ジャガイモ≡ジャガタライモ、ジャガタラは近世の日本ではジャワ島を示す。

コロンブスの初渡航は1492年出発。一説にジャガイモの大凶作が動機の一つと云われるメイフラワー号の出航は1620年。その間の130年でイギリスの主要農産物の一つになっていた分けです。

現在、世界中で広く食べられ、地域や国の代表的食品とされている物、キムチ、ポテトチップス、コロッケ、ポップコーン、トマトケチャップの無い味気無い食生活が想像出来ますか？

2015年度第1回調査「タンポポ調査」始まりました

フィールドレポーターの2015年度の第1回調査、「タンポポ調査」が始まりました。皆さんのお手元には調査のご案内と調査票が届いていると思います。すでにカンサイタンポポが咲いている頃ではないでしょうか。農作業や散歩の合間に少し休んで周りに咲いているタンポポを観察して調査票を送ってください。

調査期間は2015年5月31日までです。琵琶湖博物館のホームページからも確認できます。ぜひ、多くの方の参加をお待ちしております。

2015年度第1回フィールドレポーター交流会の予告です

毎年恒例になっています第1回交流会を次の通り開催する予定です。
開催日は5月16日(土)で、予定している内容は次の通りです。

1、2014年度の調査結果の報告会

(1)「身近なシイノキとその花をしらべてみよう」と「身近なシイノキのドングリをしらべてみよう」

(2)「みんなも着ている、和服大調査」

2、イベント；「シイノキの花の観察会」です。

今から予定に組み込んでいただきまして、多くの方のご参加をお待ちしております。

フィールドレポーター活動報告

定例会は毎月原則として 第1土曜日、第3土曜日に博物館の交流室で行っています。掲示板の最終ページの予定表をご覧ください。その他行事はその都度案内しています。お気軽に参加して下さい。2015年1月から2015年3月までの活動内容は次の通りです。

| 月 | 日 | 場 所 | 参加者 | 主な内容 |
|----|--------|-----|-----|--|
| 1月 | 10日(土) | 交流室 | 10名 | ①春の調査で「タンポポ調査」を実施する。実施予定と担当決定した。 ②「和服調査」の集計状況と報告とデータ整理について ③シイノキのドングリ調査票の整理状況報告 ④C展示室のリニューアル検討中 ⑤交流会の活発化について検討 |
| | 24日(土) | 交流室 | 8名 | ①タンポポ調査、調査票の内容検討 ②「和服調査」の集計状況と報告とデータ整理について ③C展示室のリニューアルのテーマ検討 ④交流会の活発化について検討 |
| 2月 | 7日(土) | 交流室 | 9名 | ①「和服調査」のデータ整理分担 ②びわ博フェスのオープンハウスのテーマ検討 ③交流会の案について、アンケートを計画 |
| | 21日(土) | 交流室 | 10名 | ①タンポポ調査、調査票の内容検討 ②「和服調査」のデータ整理状況報告 ③びわ博フェスのオープンハウステーマ、「あなたもセミ博士」に決定。 |
| 3月 | 7日(土) | 交流室 | 10名 | ①シイノキ調査レポーターだより案の検討 ②「和服調査」集計結果の検討 ③次の資料発送作業。FRレポーター更新票、交流会アンケート、タンポポ調査案内・調査票 |
| | 21日(土) | 交流室 | 8名 | ①掲示板4号の発行・印刷・発送 ②午後:リニューアルの業者デモ |

フィールドレポーター4月～6月予定

次のとおり計画しておりますので皆さんご予定、ご参加お願いいたします。

なお、予定が変更になる場合がありますのでご了承ください。

| | 日 時 | 内 容 | 場 所 |
|----|--------------------|-------------|--------|
| 4月 | 4日(土) 13:30～17:00 | 定例会 | 博物館交流室 |
| | 18日(土) 13:30～17:00 | 定例会 | 博物館交流室 |
| 5月 | 9日(土) 13:30～17:00 | 定例会 | 博物館交流室 |
| | 16日(土) 10:00～17:00 | 新年度第1回交流会 | 生活実験工房 |
| 6月 | 6日(土) 13:30～17:00 | 定例会 | 博物館交流室 |
| | 20日(土) 13:30～17:00 | 定例会、掲示板1号発行 | 博物館交流室 |

(おことわり；上表の博物館とは琵琶湖博物館のことです。)

編 集 後 記

東大寺のお水とりの頃は粉雪が舞ったりして寒かったのですが、一週間後には気温が20℃を越えて4月中旬の気温になったり、その後また気温が下がるとかで体調管理が難しい季節の変わり目です。それでも確実に暖かくなってきました、元気に戸外に出かけようと思っております。

4月から新年度を迎えます。更新手続きはお済みでしょうか。また、2015年度第1回調査「タンポポ調査」が始まりました。新年度もフィールドレポーターの活動が活発になるようにスタッフ一同智恵を出してまいりたいと思っております。皆様のご参加お願いいたします。

掲示板の投稿もおねがいします。身の回りのこと、こんなことを見つけた、こんな写真が撮れた等ご気軽に投稿して下さい。

(担当 FRS 椛島)



滋賀県立
琵琶湖博物館
交流センター
〒525-0001 草津市下物1091
TEL 077-568-4811 (代) FAX 077-568-4850
E-mail: freporter@lbm.go.jp